

# 2003年 風来坊 Country Walk

## 里歩き & 山歩き



2004. 1. 31.



by Mutsu Nakanishi

## 2003年 風来坊 Country Walk 里歩き & 山歩き

2004.1.31. by Mutsu Nakanishi

1. 暖かい冬の週末 柏ひだまり Walk 2003.1.26.&2.1.
2. 桜散策 Walk 東京・千葉界限 2003. 4月 2003. 4. 6&12.  
東京 千鳥が淵 ・谷中から上野・千葉佐倉
3. 鎌掛(かいがけ) 石楠花谷 walk 2003.4.28.  
天然記念物ホンシャクナゲの群落 滋賀県 日野町
4. 5月の連休 山口へ【1】 秋吉台 カルスト 2003.5.4.
5. 5月の連休 山口へ【2】 山口県 瀬戸内東部 2003.5.5.  
白壁の街「柳井」・本四架橋のモデル 大島大橋・由宇温泉へ
6. 福島県 土湯峠湿原 「赤湯」温泉 を訪ねて
7. 国立民族学博物館 2003年特別展「西アフリカ おはなし村」open  
バオバブの木の下で 2003.7.24. - 11.25.  
〔西アフリカ おはなし村 ガイド〕
8. 研究公演「マリ国立民族舞踊団による音楽とおどり」公演と交流会 2003. 8. 3.  
バオバブの木の下で みんなで踊って
9. 鉄のモニュメント 万博お祭り広場 大屋根 - 万博記念公園点描 -  
大阪万国博覧会 お祭り広場を支えた大屋根 覚えていますか
10. 「久しぶりのアメリカ で」風来坊 2003.9.7.~9.22. 2003.9.22.
11. 第50回日本伝統工芸展に今年も入選された田中講平先生 2003.10.10.  
山口市吉敷の「陶房葉月」に寄せていただいて
12. 鉄のモニュメント 北海道百年記念塔 2003.10.27.

# 2003年 風来坊 Country Walk 里歩き & 山歩き

## 1. 暖かい冬の週末 柏ひだまり Walk 2003.1.26. & 2.1.

### 1. 筑波牡丹園



### 2. 牛久神谷シャトー



### 3. 流山利根運河



今 家内が柏の整理に神戸から来て来てくれています

寒い朝 ぎりぎりまで寝ていて 朝飯が出来ていのに感謝しています

暖かい快晴の週末 社宅にいるのがもったいなくて近くを Walk

1.26. 柏の北の街 牛久にある 筑波 牡丹園の寒牡丹を見て 近代産業遺産の一つと称される明治の洋館 神谷シャトーに出かけました。

牛久の西の端 筑波市との境に牡丹園があり、冬の牡丹で有名冬になると JR 柏駅に大きな宣伝の看板がでる。冬牡丹のシーズンオープンとの新聞。又、牛久駅の近くの林の中にある神谷シャトー。

「日本で最初に葡萄酒製造した日本近代産業遺産の建築物の中でゆったりとした雰囲気でお昼を楽しめる」と本に出ている。最近のワイン城は各地に出来てはいいものの産業遺産としてのワイン醸造工場が残っている。この二つをつないで 日曜日の午後 ゆっくりと牛久ですごしました。

2. 1. 利根川と江戸川をつなぐ利根運河の土手を歩きました。

丁度 銚子の河口から 100km〔正確には 96.5km〕のところ柏と野田市の境のところから横へ江戸川まで明治に掘られた利根運河 利根川流域から東京への物資輸送の大動脈

京都に琵琶湖疎水とインクラインがありますが、この利根運河も日本近代化の1ページ

今は 運河沿いに美しい桜並木が並びよく整備された自然公園

### 1.1. 冬 牡 丹 2003.1.26 筑波 牡丹園で



静かな林の中 ひとつひとつ わら帽子をかぶせてもらって 女王の品格と美しさ

大輪の冬牡丹 豪華で あでやか

「立てば芍薬 座れば牡丹 歩く姿は百合の花」

昔から美人を表現するのに使われた花。またそのあでやかさは 背中への刺青 そして 花札に 大輪の花一つ

で 画面いっぱい パツとはなやかになる。昔から愛された所以であろう



筑波牡丹園 冬牡丹 ギャラリー 2003.1.26.



1輪で全体を主張する寒牡丹 すごいですね  
大輪の花が今を盛りと咲き誇っている春の牡丹もいいですが、ひとつひとつ 大事に帽子をかぶせてもらっているのも それぞれが個性を発揮していて楽しい。  
牡丹もその系統もが幾つもあるって 一つとして同じものがこの牡丹園には植えられていない。園の人によると種類は五万とあるという。  
ふっと頭に浮かぶのは 花菖蒲・朝顔など日本古来種の品種改良の歴史がこの花にもあのだらう。  
静かな田園に囲まれた岡の斜面の林の中にひとつひとつ我が家を持って咲く 寒牡丹  
久しぶりにゆったりと花を見ながらの陽だまりの散策。デジカメ写真も楽しく 家内とスライド ショウにして楽しんでいます。

## 1.2. 日本の葡萄酒 発祥の地 牛久 神谷シャトーで 2003.1.26.



僕が小さい頃にはまだ 蜂印の葡萄酒ありました。

その蜂印葡萄酒の醸造場を中心とした洋館立ての工場が牛久 神谷シャトーという名の美しい洋館として残っていると言う。近代産業遺産としての価値の高い建物である。

最近の地ビールや地ワインの工場など最初から観光目的の建物と違って やっぱり歴史の重みがある美しい建物である。広い庭の木立の間に立つレンガ造りの洋館はやっぱりシャトーの風格



神谷伝伝兵衛 記念館 旧蜂印葡萄酒 貯蔵蔵

「ゆっくり ワインを飲みながら料理を味わって」 と思っていましたが、残念ながら結婚式の貸切でダメでも この洋館の中でのティも素晴らしいもまのでした

気取らず 金儲け主義でもない ゆったりとした雰囲気の中で日曜日の午後 家内と二人 お茶して帰りました。

蛇足ながら 珈琲カップや ケーキ皿 全て ナルミのボンチャイナ

洋館の高い柱 天上のシャンデリアとマッチして 豊かな気分にしてくれ ご機嫌でした。



天井のシャンデリアには蜂の図案 ナルミ ボンチャイナ の ティーカップ にも出会って  
ステキな午後のひとときでした

2003. 2 5. by M. Nakanishi

### 1.3. 利根川土手から 流山 利根運河 Walk 2003.2.1



利根川の土手と筑波山



利根川と江戸川を結ぶ 利根運河



「運河」というとどんなイメージ 持ちますか・・・ 家内はスエズやパナマ運河をイメージすとい  
う。

私は尼崎に住んだせいかな 港に近いかだに組まれた材木置き場やはしけ溜まりがある濁った川のイメージ  
柏・野田・流山の境はずれ 東武野田線に「運河」という駅がある。

あまり広くない川の土手には桜並木が続き、よく整備された河川公園川にそって広がっている。

川にそって東京理科大学のキャンパスや整然とした住宅街がひろがり、美しい高級住宅街の感。

なんで こんな美しい場所に「運河」なんていう地名つけるのか 僕にとっては 常々不思議。

柏から利根川の土手に出て 利根川越しに筑波山を見て 万がよければ 振り返った南の遠くに白銀輝  
く富士山

利根川の土手をゆったり北へ歩ると上記した利根運河の利根川口に至る。銚子の利根川河口から丁度  
100km の地点である。

ここから 西へ江戸川までをつなぐのが、明治に利根川流域の物資を東京へ最短コースで結ぶ輸送路として  
民間で掘削開通された利根運河。

そういう意味ではこの利根運河も近代産業遺産。

この柏・野田の北 関宿から江戸川が分流され、 利根川を通して関宿で江戸川にでて江戸・東京へ出る航  
路は関東の物資輸送の幹線であり、野田はその物資集散地として栄えたと言う。しかし、暴れ川利根川の中  
流に属するこのあたりでは 昔から水路がしばしば変わり、又浅瀬の出現が航路を阻み、利根川の下流域の  
物資はしばしば 柏から陸路で流山の江戸川へパイプカットされることも多く、利根運河の必要性が昔から  
あったという。

明治になって 幾度となく 利根川と江戸川をつなぐ運河の計画の挫折を経て 明治 23 年にこの利根運河

が完成し、鉄道網が展開するまで 物資輸送の幹線として 多くの船が出入りしたと言う。  
そんな歴史を秘めた利根運河ではあるが 今は遊歩道・サイクリング道路が整備され、周辺の市民の憩いの場。

断片的には知っていたのですが、僕にとっては「運河」の言葉はさほど良いイメージなく、きっちり歩いた事なし。

そんなことで 2.1.土曜日 柏花野井の家から 利根川沿いを歩いて 利根運河の利根川口へ そして 運河沿いにぶらぶら 東武「運河」の河川公園まで歩き、そのまま運河を離れ、深井の里を抜け 工業団地の横を花野井へ ほぼ 昼をはさんで 5 時間 約 16km 野鳥の声を聞きながら 川岸や雑木林の中を気持ちの良いwalk



利根川土手と筑波山 2003 2. 1



利根運河入口柏近傍  
遠景は建設中の筑波エクスプレス



銚子から 95km の標識

今 柏の利根川周辺は平成 17 年を目指した常磐エクスプレスの新線工事が真っ最中。瞬く間に橋脚が建ち並びました。

この利根川岸には柏北部駅が出来ると言う。「どこまでも続く原っぱと利根川の土手 そして その向こうに頭をのぞかせる筑波山」の景観ももうまもなく駅と住宅街の中に埋もれてしまうでしょう。

運河の川底はポカポカ陽気 ひゅんひゅん風が舞う利根川土手とは大きく様変わり。 だれもいない土手下 芦原と川の流れと鳥の声 時折 土手をサイクリングする人の声 自然浴 自然浴



利根運河 河原で 利根運河



東武「運河」駅 近傍



「運河」等と呼ばず、もっと良い名前ないのでしょうか・・・  
僕の頭にある「運河」のイメージ この「利根運河」には全くなし よく整備されているはいえ 自然一杯の Walking Road 。 これで 富士山見えたら最高なのですが、今日はダメでした。

2.

桜散策 Walk 東京・千葉界限 2003. 4月 2003. 4. 6&12.

東京 千鳥が淵 ・谷中から上野・千葉佐倉



4月6日晴天の日曜日。絶好の花見日和。私の知らなかった東京桜の名所 walk  
昨年は三春の滝桜見に行ったのですが、今年は家内と二人 オノポリサンで 一日東京の桜を楽しみました。

「谷中から上野への江戸下町の桜見物」常磐沿線に住む京都仲間が企画してくれた会に参加のため家内も上京。東京の桜はお堀端・隅田川そして上野の山が一番と家内に講釈。

昔 何度かフェアモンドホテルに泊まって何の気なしに見ていた千鳥が淵・北の丸公園の桜。

お堀に散る桜の美しさ 是非行こうということになって、午後の「谷中から上野への花見物」の会にかこつけ 午前中に千鳥が淵の花見に出かけました。

皇居をぐるっと回って 千鳥が淵から虎ノ門へ 人の多さにびっくりしましたが、千鳥が淵の桜 やっぱ美しい。また 青空にそびえる丸の内のビル群を背景に咲く皇居北の丸公園の桜 東京でないと見られぬ美しい景色。絵葉書にしたような美しさでした。



千鳥が淵



皇居 北の丸公園より 丸の内ビル群



北の丸公園 2003.4.6.

午後 五組の夫婦で散策 江戸情緒を楽しむ谷中界隈の花見も面白かったですよ。谷中は JR 線沿いに日暮里から上野まで徳川慶喜の墓もある墓地が続き、江戸情緒の残る古い下町。

桜の名所は墓地と学校とダムというそうですが、桜並木が続く墓場にぎっしりゴザを敷き詰め他人の墓標の前墓場でみんな宴会を繰り広げている光景にはビックリ。

東京では 上野・隅田川堤といい、桜の下での宴会まだ 残っているのですね・・・

もっとも 私たちの桜散策も花を見て一句・・・??? との趣旨でしたが花よりダンゴ。

谷中から根津まで谷中の霊園の桜を見て根津の「笹乃雪」で江戸の豆富(豆腐)料理を味わって鶯谷でカラオケで盛り上がりました。



谷中墓地の花見散策 2003.4.6.

翌週 家内と千葉県 縄文の埴輪展をやっている佐倉 歴史民俗博物館に出かけました。

歴史民俗博物館は佐倉市の中心の小高い丘陵にある佐倉城址にあるのですが、思いもかけず色々の種類の桜が満開。また、佐倉と八街の境にある丘陵地にある川村美術館にも初めて訪れました。

シャガールやルノアールなどの絵や横山大観ほかの日本画そしてヘンリームーアの彫刻などよく整備された森の中にある美術館。一度行きたかったところ。

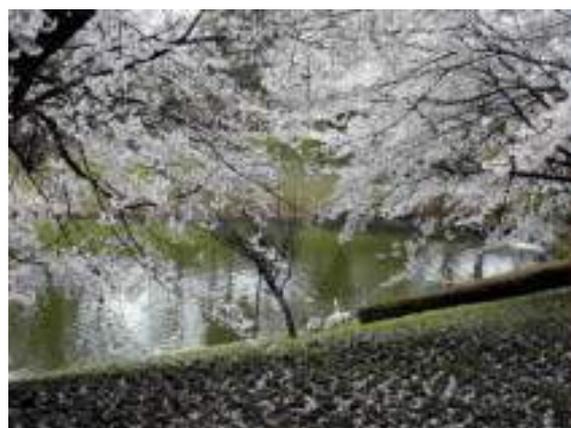
この川村美術館の広い庭園も桜満開。

すばらしいものでした。

絵もさることながら 夕霧にけむる緑の森をバックに満開の桜を眺めながらのゆったりしたティータイム疲れを忘れず。是非 お勧めです。



佐倉城址 2003.4.12



佐倉 川村美術館で 2003.4.12.

桜見物 色々な楽しみ方がありますが、今年もまた 新鮮な桜見物 good でした。

お茶でも飲みながら 芽吹きの木々の緑をバックに散り行く桜をゆっくりと眺めるのが 今が一番。あとは ハナより ダンゴです。

2003.4.12. Mutsu Nakanishi

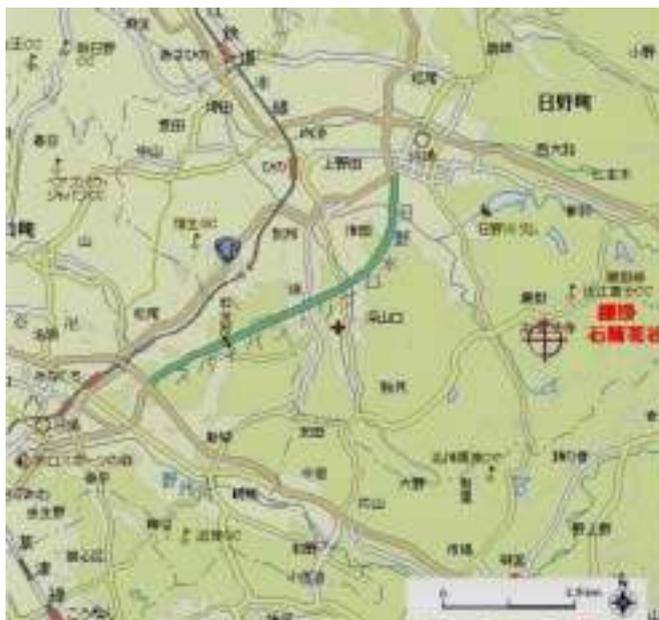
## 鎌掛(かがけ) 石楠花谷 walk

3.

天然記念物ホンシャクナゲの群落 滋賀県 日野町 2003.4.28.



4.27. 大型連休 滋賀県日野町 鈴鹿山脈 綿向山麓のホンシャクナゲの群落地 鎌掛谷に行ってきました。  
まだ ちょっと早かったのですが、鎌掛谷の山の斜面いっばいに石楠花が咲き誇っていました。  
こんなに群生した石楠花を顔をくっつけて見たのは初めて。  
山に春のシーズンを告げる純朴で清純な大輪の花。  
新緑のやわらかい緑に萌える山をバックに五月を待ちわびて咲く石楠花はやっぱり 山の花の盟主の風格。  
一番好きな花のひとつ 期待どおりの群落にご機嫌でした。



滋賀県 日野町 鎌掛 MAP



滋賀県日野町 鎌掛谷に咲くホンシャクナゲの群落【1】 2003.4.27.



滋賀県日野町 鎌掛谷に咲くホンシャクナゲの群落 【2】 2003.4.27.

### 3.1. ホンシャクナゲの群落 「鎌掛 石楠花谷」 Walk



4.27. 家内の父が亡くなって17年 義父の供養に京都に行く家内に便乗して、滋賀の石楠花を見に行く。

桜が終わって 5月の声を聞くと琵琶湖西岸に連なる比良山や鈴鹿の山々には「石楠花」が清楚ではあるが大輪の花を咲かせ、山に登山シーズンの到来を告げる。

「石楠花」の話になると「カイガケ」の石楠花が一番 それは見事 日本一」と眼を輝かして話す滋賀出身の義父が眼に浮かぶ。

そんな父が「石楠花」の季節になくなって17年。

家内が その父の法事に京都へ行くという。幾度となく聞いた「カイガケ」の石楠花丁度今が満開の候。

思い出したのを機会に朝早く家内に便乗して京都まで行って そこからまだ行った事のない「カイガケ・鎌掛の石楠花 walk」。

地図で調べると鈴鹿山脈 綿向山の麓 日野川ダムの西。この谷を詰めると鈴鹿越え。土山・鈴鹿峠へ繋がる山裾の「日野町 鎌掛」にしっかりと石楠花群生地マークがある。

鈴鹿山脈の北側の山裾から 琵琶湖湖岸にかけての地域は古代から早く



開けた土地で、古代 帰化人・渡来人が多く住み 渡来人の本拠となったところである。学生時代 日野川の奥の古代にその起源を持つ名刹西明寺(今は西明禅寺というらしい)に仏像拝観に訪ねたことがあるがその

近くらしい。

琵琶湖岸の東海道からは随分奥で また 鈴鹿へ抜ける国道1号線からもはずれ、山裾に入らねばならない。その当時は便が悪く、帰りに日野・蒲生・近江八幡まで田圃の中をテクテクもういやというほど歩いた記憶があり、それが俗化を阻んで、今も美しい石楠花の群落を守っているに近い。

日野まで行けば何とかなる。風来坊である。

当時を思い出しながら 京都から草津 草津線で貴生川へ。 貴生川から近江鉄道で日野へ行って、そこから先はタクシー。

京都から JR 草津線・近江鉄道経由で一時間半ちょっとで日野の街。

このあたりは 大阪・京都の通勤圏として 見違えるような新興住宅地に発展。交通事情がすごく便利になっているのもビックリ。

日野は蒲生氏郷の城下町 日野商人・近江商人発祥の地で以前訪づれた時はこの地方の中心町として人の往来も多く随分にぎわっていたが、今は閑散としていてまったく通りに人影なし。時の流れが移った事をひしひしと感じる。



滋賀県 日野町の家並

2003.4.27.

ここから 臨時のバスが鎌掛シャクナゲ溪にでているのですが、便利悪く タクシーにする。

5/2 からの「日野祭」の曳き山の準備があちこちで進められている。古い商家が建ち並ぶ家並が長く続く街道筋を抜けるとあっという間に山裾の田園風景が広がる。

日野から鈴鹿山系の御在所山を越えて三重県へ向う街道をタクシーで約 15 分 山裾の鎌掛集落に入り、谷筋に入ったところが、しゃくなげ溪入り口。



駐車場と休憩所があり、ここから鈴鹿へ向う道と別れ、シャクナゲ溪谷の細い谷筋が奥に伸びている。

谷の入り口には関所があり、日野町の人達が石楠花の保護のため整理にあっている。

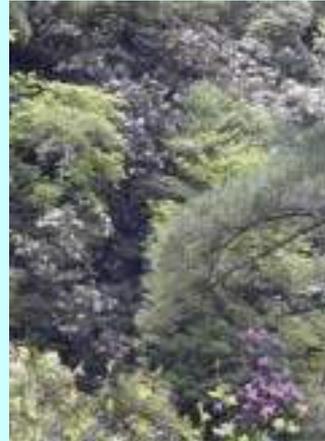
小さな川を挟んで左側には車道 右側には遊歩道が奥に伸び、石楠花群生地への登山口へ伸びている。

ここから先 マイカーはシャットアウト。 川沿いを歩くか バスに乗り換えるか である。

(この鎌掛 石楠花の群生地のある谷は 鎌掛谷 石楠花溪 石楠花谷 など色々な名前がつけられている。また 「鎌掛」と書いて「カイガケ」と読む。義父がカイガケとよく言っていました。漢字と結びつきませんでした。)

## 鎌掛谷 ホンシャクナゲ 群生地

鈴鹿国定公園内の日野市鎌掛 通称「石楠花谷」と呼ばれる標高 250m 前後の山肌の面積 4 万 m<sup>2</sup> に 約 2 万本のホンシャクナゲが群生。  
石楠花谷のような低い山に群生するのは非常に珍しく国の天然記念物に指定されている。また、石楠花の群落で天然記念物に指定されているのは、この鎌掛のホンシャクナゲと群馬県草津町のハクサンシャクナゲ・アズマシャクナゲの 2 箇所のみである。



鎌掛 石楠花谷 ホンシャクナゲ 群生地 2003.4.27.

## ホンシャクナゲ 解説

ツツジ科常緑生木で 4 月下旬～5 月上旬に花が咲く。  
つぼみの時は濃い紅色で花が咲くに従って紅色が薄れ、淡いピンクが広がる。  
先端が 7 つに枝分かれて、直径 4～5 センチの小さな 7 つの花で大輪の花を構成し、それぞれに 14 本のおしべがあるのが特徴だそうです。



# 1. 石楠花 遊歩道を歩いて 群生地への登り口「石楠花池」へ



有名なシャクナゲの群落地「鎌掛」の入り口 石楠花溪。

シャクナゲ溪の入り口から 川に沿って上流へ林の中に遊歩道がつけられ、その川沿いに点々とホンシャクナゲが花を咲かせている。

おそらく 公園整備として植え替えられたものであろうが、すぐそばで見られて good。



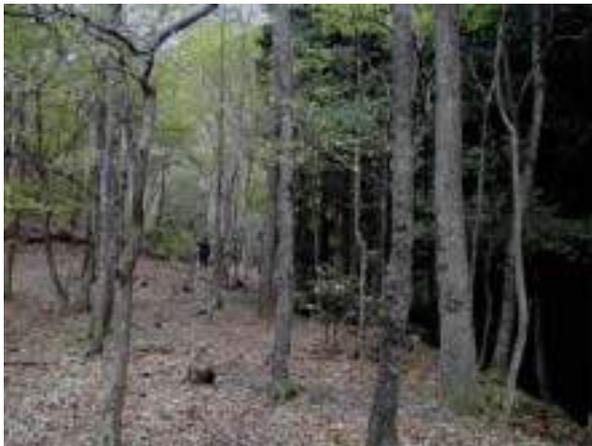
しゃくなげ溪 遊歩道で 2003.4.27.



木々の若葉やわらかい緑と石楠花やツツジの花を楽しみながら 散策路を約 30 分ほど登り降りを楽しんで 小さな砂防ダムが水をせき止めてできた「石楠花池」の縁に出る。バスもここまであがってくる。芽吹きはやわらかい緑と広い川のせせらぎに春の光がかがやき、どこか深山に分け入った山中の河原にでも出たような気分。

一軒の家も看板もなく、わずかに石楠花群生地への登り口を示す大きな石碑と地図を示す小さな看板があるだけで、本当に自然によく配慮されている。





ここから谷は本谷と左股に石楠花の群生地へ伸びる小さな支谷「石楠花谷」に別れる。

新緑に彩られた林の中 さくさくと落ち葉の感触と水の流  
れの音が心地よく耳に聞こえる林の中の散策路

人でいっぱいと思っていましたが、拍子抜けするくらい人  
が少ない。 花よりも人にもまれながらの有名地の縦走路  
を歩くことと思えば正解。

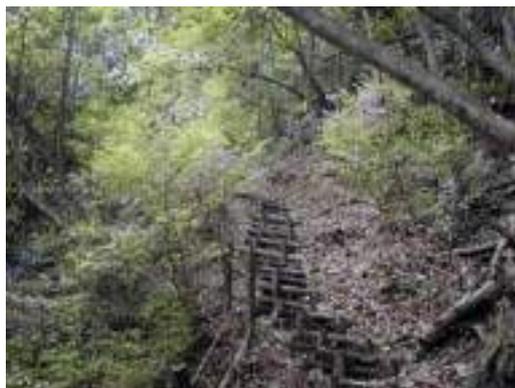
時期がちょっと早いのか 紅色のつぼみと淡いピンクの  
大輪の花の両方がついている。

この頃の石楠花が一番美しい。

柔らかな緑の林の中で花に顔を近づけて 一つ  
一つ枝分かれした花とおしべの数まで見られる  
のが楽しい。

また、真っ赤なつばきの花がまだ残り、ツツジ  
がピンクの花をつけ、春到来を林全体で告げて  
いる。

これも また 楽しい。



ここからがホンシャクナゲの群落自生地への本格的な登りとなるが、よく整備された登山道が続いている。  
バスでここまで来て ここから登り始める人 下へ遊歩道を降りて行く人もいる。



遊歩道 ホンシャクナゲ自生群落地への登り口 石楠花池周辺 2003.4.27.

## 2. ホンシャクナゲ群落 石楠花谷 自生地へ



石楠花谷 ホンシャクナゲ 群落自生地登山口                      ホンシャクナゲ 群落

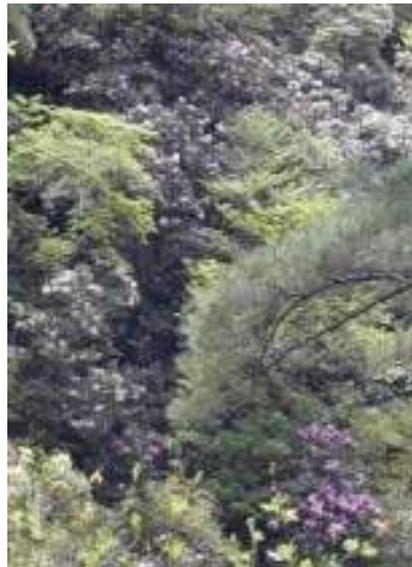
ここから左股の支谷に入り、いよいよ山道を石楠花の自生している群落地へ登って行く。

15分ほど登ると小さな谷を挟んで右の急な山の斜面いっぱい上方へ石楠花が花をつけている。本当に山の斜面に沿って横に繋がっているのを見たことは在りますが、縦方向につながって自生している様にはビックリ。まだ ちょっと時期が早いのか つぼみが多い。

顔を近づけると言うわけには行かないが、美しい。登るにつれ谷を挟んで あちこちで石楠花の群生が見られる。まさに石楠花谷である。

石楠花池から 約 30 分ほどで山の頂上部から谷まで山の斜面全体に群生した石楠花を見渡せる展望所に到着。

ここから先は石楠花保護のため、立ち入り禁止区域でみんなストップである。



鎌掛・石楠花谷 天然記念物 ホンシャクナゲの群落 2003.4.27.



シャクナゲ群落 展望所からの 群生地 展望



鎌掛 石楠花谷 ホンシャクナゲの群落 群落地展望所より 2003.4.27.

展望所からは谷を挟んで反対側の山の斜面全体に自生するシャクナゲが鈴鹿の山々の芽吹いた淡い緑をバックに見渡せる。一つ一つの花は見えませんが、急斜面の山肌を覆い尽くす石楠花に見とれていました。



はじめて 鎌掛 石楠花谷を歩きましたが、石楠花と共に芽吹きを迎えたこの谷の自然も素晴らしい。本当に 里に近いところで 俗化せずに 静かに里山散策ができるのがうれしい。一輪一輪 顔をくっつけてじっくり見る石楠花と山を覆い尽くす石楠花の群落の両方見られるところは本当に数少ない。商魂に走らず、こんなに大きな群落と自然を守り通している日野町の努力も大変だろう。もう少し奥まで歩いて 稜線まで行きたい気持ちはあるが、群落を守るために奥に入るのを規制しているのもやむ終えない。地元の人達が言うには 今年花が少ない年。来年はもっと沢山の花がつくと・・・・・・・・。



周りの交通事情が整備され、観光資源の目玉になると荒らされ一変にダメになってしまうことが多い。今日も琵琶湖線 湖西線には比良や湖南アルプス・信楽の山をめざすすごい数のハイカーが乗車して満員。

昨今の中高年のアウトドア ブームはすごい。しかも マスコミ・雑誌が取り上げるともう そこだけにルール無視で集中する。地元滋賀では知らない人がいない有名だと聞くのに・・・・・・・・。まだ 鎌掛の石楠花谷の素晴らしさが知られていないのだろうか。もう住宅はついそこまで押し寄せている。この群落がきちっと守られることを切実に願わずにはいられない。



「カイガケ・鎌掛」 私にとっては長く聞きなれた「幻の石楠花」。  
こんな近くにこんな素晴らしい石楠花の谷があるなど夢にも思わず。  
なぜもっと早くこなかったのか・・・と。  
淡いピンクの純朴な花が芽吹きを迎えた山いっばいに山の春を告げている。  
本当に淡いピンクの石楠花一輪に感動しました。



2003. 4.27.

日野から貴生川へ近江鉄道のキシミの音を聞きながら

### 3.2. 滋賀県日野町 鎌掛 石楠花谷 ホンシャクナゲ写真 FILE 2003.4.27.

鈴鹿国定公園  
天然記念物 鎌掛谷のホンシャクナゲ群落地



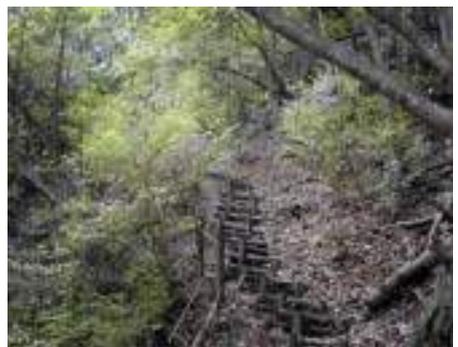
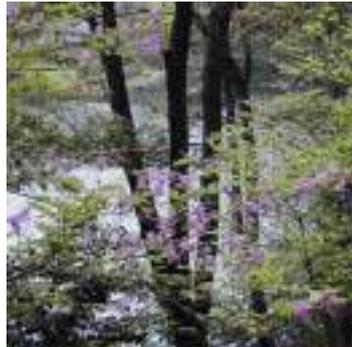
鈴鹿国定公園特別区域にある「鎌掛谷のホンシャクナゲ群落地」は、日野町鎌掛の通称「石楠花谷」と呼ばれる標高250m前後の谷の山肌に面積およそ4万㎡、約2万本ものホンシャクナゲが見事に群生している区域です。

ホンシャクナゲはツツジ科の常緑生木で、県内では比良や鈴鹿の標高の高い山地に自生し、高さ4～5m、枝わかれした先端には花を取り巻くように光沢のある細長い葉が集まっています。

花をつけるのは4月下旬から5月上旬で、つぼみのときは濃い紅色で、花を開くにしたがって紅色が薄れ、淡いピンクが広がっていきます。花の直径は4～5cm、先端が7つにわかれて14本のおしべがある点がこのホンシャクナゲの特徴です。

高い山に自生するホンシャクナゲが、石楠花谷のような低い山に群生するのは非常にめずらしく、昭和6年に国の天然記念物に指定されました。シャクナゲの群落で天然記念物に指定されているのは、群馬県草津町のアズマシャクナゲ・ハクサンシャクナゲの群落と、この鎌掛の2箇所だけです。





鎌掛(かいがけ) 石楠花谷 walk  
滋賀県 日野町 2003.4.28.  
天然記念物ホンシャクナゲの群落

【完】

5月の連休 山口へ【1】

4.

秋吉台 カルスト 2003.5.4.

秋吉台には何度もでかけましたが、こんなに多く窪地が連続しているとは全くきつかず。カルストのイメージを石灰石群によせていましたが、カルスト地形群はじめて体験できました。新しい発見です。



5月の連休 早朝 春の秋吉 カルスト台地を歩きました。

早朝 天気もさほど良くなく曇り空がさいわい。

柔らかな草地に野鳥がさえずり、自然のおいしい空気を体一杯に吸い込み、

ゆったりとした朝の散歩が楽しめました。

秋吉台は山焼きか終わって 新緑目吹の季節。

多くの石灰石が露出し、一番秋吉台らしい季節。

今回は展望台のところから カルスト台地の中に入り、剣山(302m)まで カルスト台地の南半分の Walk。



カルストの窪地がこの草原の台地にこんなに沢山あると意識したのは初めて。

何時もは 無数に散らばる石灰石に目がいてしまうのですが。。。野鳥の声と共にすごく新鮮。

新しい発見でした。

ホテル秋芳館のところに戻って 新緑の草原を眺めながらの早朝の tea time

旅にでるとこの気分を味わえるのが一番。

秋吉台 カルスト台地 walk 2003.5.4.

## 5.

## 白壁の街「柳井」・本四架橋のモデル 大島大橋・由宇温泉へ



山口から神戸への帰りに「由宇 ゆう」の名前に惹かれて「由宇温泉」へ寄ろうと家内がゆう。また、友達と縁のある「柳井」の街へも行ってみたいという。

山陽道を西から東へ山口県を走って徳山を抜けたあたりの山間のトンネルの入り口の上に大きく「由宇温泉」の看板がかかっている。「ラドンを含んだ静かな山間の温泉郷……」 いつも見上げる看板。ぼくもこの名前 印象強く どんな所かと興味津津の場所。

「柳井」も以前 美祢で仕事している時、何度か「さび・エッチング」で教を請いに通ったK先生の会社がある。

当時 街は人も少なく、本当にさびれた街との印象が強かったが、最近は「白壁 土蔵造りの家並が美しい街」「金魚提灯が軒先にひるかえる街」として観光地として売り出し中。どう 変わったのだろう。

「柳井」から海岸沿いを走ればすぐ大島大橋 流れの速い瀬戸の橋脚として本四架橋の多柱基礎が試されたモデル橋。そして 私のところの高張力鋼板が大量に使われたトラス橋でもある。

家内の興味とぼくの興味と会うのはほんととまたとないチャンス。 すぐに Agree 。少し美祢を早く出て、山口県の東部瀬戸内海側に寄って帰ることにしました。

## 白壁の街 柳井



近年、こうゆう古めかしい場所が だんだん亡くなっている。  
世に有名なのは伊豆の下田と備中の倉敷だが、  
ここにもそれにまけないような土蔵造りの家がならんでいる。』

市役所前の観光客用駐車場にある松本清張の文学碑に刻まれた文である。

本当に街の中 街も人の印象もすっかり変わっていました。

十年程前 「古い家並の街」と紹介されている「柳井」を歩こうと駅前から歩き出したのですが、ひとけ乏しい通りの入り口に金魚提灯が一つ風にさびしくゆれ、「もう手入れをしなければ……朽ち果てそう。」

と断片的に残る土蔵造りの家並みを歩いたのとはえらい違い。 金魚提灯も この街の象徴とは知らず、うらぶれた街の象徴みたいに記憶に残っている。

今度 柳井へ行ってビックリ。 綺麗な街と車の通りが多くなって活気が戻っている。

土蔵造りの家並みが整然とならび、通りの道も丁寧に散歩道として舗装手入れされ、本当に見違えてしまいました。



昔雑然としていた土蔵造りの町並は美しく整備され、すっかり観光地になって 古き明治の町並みの中にタイムスリップしてしまった心地。

これで、人が多くなってかつての賑わいを取り戻せばいいのですが・・・・・・・・

どこへ行っても人であふれている関東から見ると 本当に静かでゆったりした気分になれる落ち着いた街になっていました。

「この通りも ちゃんと整備される前は さびれて 本当に家並みも ボロボロで 人に見てもらうなんて・・・」とこの街屋の店の人が言ってましたが、街がきれいになって 町全体が整然と整備され、車も多くなり 人も街も明るくなったように感じました。



もう以前とは全く違ったイメージが膨らんでいます。

軒先の金魚ちょうちんも夜 灯が入れば 美しいだろうなあ・・・・・・・・

一度は 金魚提灯祭りの夜 灯が入った時に訪れたいもの。

柳井の町に工場と研究所を構え 色々教を請うたK先生 今度は是非お訪ねしたいもの・・・・・・・・

家内も 美しい街に「友達にも 話ができる」と喜んでいます。

美しくなった柳井に気分も楽になって 大島へ海岸沿いを走りました。



## 本四架橋のモデル橋 全長 1020m の大島大橋

「流れの速い瀬戸に立ち向かって 流れを変えない大型橋脚をどう建設するか??？」が本四架橋の大きな課題となり、多くのアイデアの中から 多柱基礎が選ばれ、そのモデル橋として作られたのが、この大島大橋。

研究所にいる時に何度となく耳にした「多柱基礎」そして「大島大橋用の高溶接性高張力鋼板」。材料屋としては 一度は見ておきたい橋でした。

柳井の港へ出て 海沿いに約 15 分ほど東に走ると狭い海峡に長い大きな橋が見えてくる。大島大橋である。

天空へそびえる橋塔がないいわゆる橋脚に橋桁が渡されたトラス橋で派手さはないが、海峡そのものをすっきりとまたいで美しい。海峡を横切る細い水色のトラスが海に良く映え美しい。

大阪 南港大橋もまたトラス橋の本四架橋のモデル橋であるが、鉄道・道路併設橋である

南港大橋がゴツゴツした巨大橋なのに比して実にすっきりしている。

JR 大島駅のところから橋に向かって高台に上り、一気に橋を渡って屋代島の大島町へ。

橋を渡るとやっぱり非常

に高所、瀬戸内海にちりばめられた島々や船の航跡が美しい。

やっぱり 海をわたる橋のスケールは大きい。久しぶりの海峡橋の感触にうれしくなりました。



## 由宇温泉

「由宇」っていい名前と思いませんか・・・・・・・・

大島大橋をもどって 大島から半島をまっすぐ北へ山の中に入ってゆくと 15 分ほどで由宇温泉。

清流が流れる赤い橋のたもとにある一軒屋

「ここは 昔から温泉が出たところ 「由宇」の地名も「ゆ」から。しかし 今はその温泉の地が不明。 由宇温泉はラドンを含む鉱泉・・・・・・・・」と。

山陽道 那珂 IC に近いトンネルの上に掲げられた看板に夢を膨らませていましたが、別段取り立てて言うほどの温泉でない。

ごく 普通の普段着の静かな山郷がとりえ。

まあ 夢を膨らましたままの方が良かったかも・・・・・・・・

でも やっぱり 行って見たかった 名前

「由宇」っていい名前と思いませんか・・・・・・・・



# 福島県 土湯峠湿原 「赤湯」温泉を訪ねて

akayu00.htm 2003.5.25. by M. Nakanishi



安達太良連峰「鬼面山・鉄山・くろがね小屋」  
 そして山麓から湧きだす「赤湯」の温泉  
 そこは「たたら・和鉄」と関係の深い「産鉄の地」に違いない



国道 115 土湯トンネル ゲート近傍 2003.5.25.



土湯峠 福島ー猪苗代の峠



土湯峠下土湯湿原内 赤湯温泉への標識



安達太良・吾妻連峰 土湯峠周辺の「和鉄」関連地名



赤湯温泉

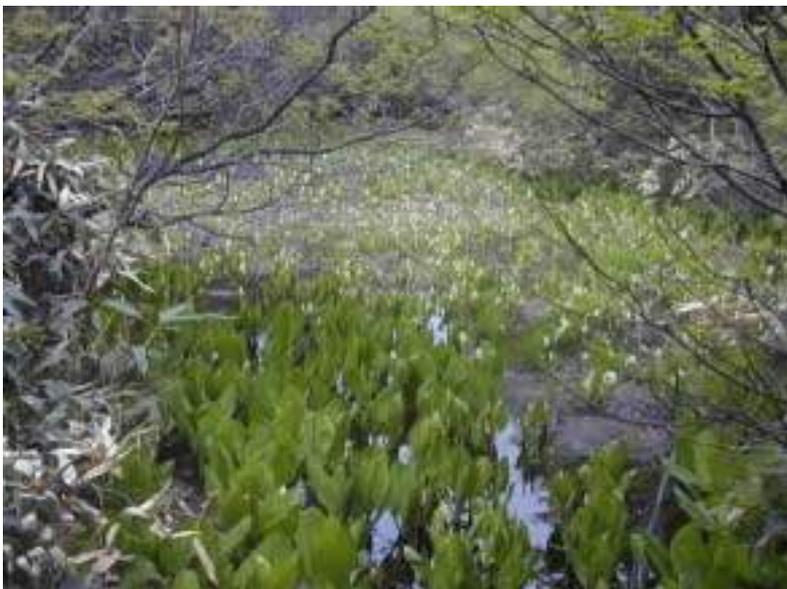
福島県を南北に貫く奥羽山脈の南の端 安達太良連峰と吾妻連峰が連なり、両連峰の境にある土湯峠古くから 東の福島市から山を越えて西の裏磐梯・猪苗代や米沢に出る交通の要衝である。

そのすぐ下の谷間に鉄分を含んだ真っ赤な湯の「赤湯温泉」がある。

すぐ眼前にそびえる安達太良連峰へは「鬼面山・鉄山から安達太良本峰へ」と縦走路が続いている。たおやかな稜線の中で特徴あるドーム型岩峰を突き上げる「鬼面山」。その向こう「鉄山」の下には「くろがね温泉・くろがね小屋」。

「知恵子抄」に代表される福島県安達太良連峰のもうひとつの知らなかった「鉄」にまつわる顔が見え隠れして興味津津。

今年の春 雑誌「山溪」にこの「赤湯」と土湯峠周辺の湿原に咲く水芭蕉が紹介され、「雪が解け春山のシーズンになれば、一番先に歩こう。出来れば今度は温泉に浸かって安達太良の縦走も・・・」と。



土湯峠下 土湯峠湿原の  
水芭蕉 2003.5.25.

少し遅かったですが 土湯峠湿原の水芭蕉と赤湯温泉を楽しみ 鬼面山を眺めながら安達太良山麓を土湯温泉までブナ林の新緑を楽しみました。

この「鉄」とゆかりの地名・和鉄産鉄とのかかわり・鬼面山の伝説など鉄にまつわる痕跡はまったくわかりませんが、二本松側から見る安達太良連峰とは全く違った別の堂々とした姿をみせる鬼面連山。そして深い原生林 その原生林の中に沸く「赤湯」の温泉。

それは もう たたら・産鉄にふさわしい地に思えました。

福島県の阿武隈から海岸側には行方製鉄遺跡などたたら製鉄が古くから営まれた地。北の奥羽山脈もまたたたら製鉄の地。

「(あだち)たたら山」産鉄にゆかりの「鬼」「鉄山」「くろがね」そして鉄分を含んだ「赤湯」これだけ揃えば産鉄の地 たたらの痕跡があると思うのですが・・・

**追伸** 帰ってから見つけたのですが 赤湯温泉のあるこの安達太良・吾妻連峰の谷間の下に吾妻小富士から東にこの谷を流れ下る川に「鍛冶川」の名があるのを見つけ益々その意を強くしています。

たたら遺跡の痕跡は見出せませんでした。土湯峠から土湯温泉まで約 20km、新緑の原生林の中にそびえる鬼面山が 前に見た大空を指差す大江山の酒天童子の像とどこかイメージと一緒に見え、すがすがしい walking でした。

この地もやっぱり 「和鉄の道」につながっていると思える Good な 一日でした。

2003.5.25. Mutsu Nakanishi

夕暮れ 新幹線車窓より 雲のかかった安達太良山をながめながら

## 福島県 安達太良連峰 鉄山・鬼面山・くろがね小屋 そして その山懐に沸く赤湯温泉

一昨年紅葉の頃 二本松市の岳温泉側から 安達太良山に登り、本峰の隣の鉄山のすぐ下の谷筋の上にあるくろがね小屋にて紅葉を楽しみながら、湯川溪谷を塩沢温泉に下りました。

絵本の国に迷い込んだような素晴らしい紅葉が楽しめた「くろがね小屋」周辺

「鉄」に関連する地名と紅葉の美しさ・温泉に知恵子抄とは違った美しさの魅力を安達太良山に感じていました。

そして 地図を眺めると安達太良連峰の本峰から北へ連なる吾妻連峰への縦走路には鉄山の先に鬼面山があり、吾妻連峰と安達太良連峰の鞍部 土湯峠に出る。

この土湯峠越えて吾妻・磐梯スカイラインならびに国道が福島から裏磐梯・猪苗代町を結んでいる。また、土湯峠から北へ広がる谷筋にも土湯温泉・野地温泉など土湯温泉郷と呼ばれる温泉が点在。その中 一番土湯峠に近い谷筋の奥に「赤湯」温泉の名を見付けました。

赤湯・鬼・鉄山 そして鍛冶川とそろっては もう「鉄」ゆかりの地に違いなし。

是非とも安達太良山の福島・土湯峠側を訪ねたくて、いろんなイメージを膨らました。

「赤湯」と呼ばれる鉄分を含んだ温泉は温度が低く鉱泉であることが多いのですが、ここ土湯峠の赤湯温泉は鉱泉ではなく、鉄分を含んだお湯がそのまま湧き出し、吾妻連峰・安達太良連峰へ出かける人の登山基地 秘境の温泉という。

是非とも行きたい場所になりました。

ついでながら土湯峠「赤湯」温泉 最近の秘湯ブームで週末は予約しないと泊まれないとの事

また「赤湯」温泉の地名 日本各地に在り。

一番ファミリアなのは 山形新幹線 「米沢」の次の駅もある山形県「赤湯」温泉。

私も この山形県「赤湯温泉」の名前が示すとおり、鉄分を含んだ「赤湯」と思って出かけたのですが、湯は「無色透明」でした。 大失敗でした。

そんなこともあって、余計に福島県「赤湯」温泉 是非行って見たい場所でした。

車があれば交通の便もよく「秘湯」というのには もう 当たらないと思いますが、原生林の中 山と新緑を眺めながらの一軒屋「赤湯」

まあ リフレッシュにはもってこいの場所です。

Mutsu Nakanishi

## 6.1. 吾妻スカイライン 浄土平・吾妻小富士から土湯峠へ



akayu01.htm



吾妻小富士 お釜の縁より、浄土平 2003.5.25.

5月24日の日曜日もう水芭蕉も終わりだし、6月になるとバタバタ。天候は良くなっていくという予報を信じて、朝一番の東北新幹線に飛び乗り、土湯峠「赤湯」温泉へ。

生憎不安定な天候で新幹線から見る安達太良連峰はすっぱり雲の中。

二本松側西側から安達太良連峰を縦走をして東側の土湯峠・赤湯温泉へ行く計画でしたが、風の強い頂上付近で霧にまかれるのもいやで急遽断念。

福島から吾妻スカイラインを通過して直接土湯峠へ出て、赤湯温泉と温泉周辺の湿原 新緑の安達太良山麓を土湯温泉まで山を眺めながらのハイキングに急遽変更。途中 吾妻連峰 浄土平のバス休憩に吾妻小富士に登ってきました。

吾妻連峰は霞んでいますが、雲なし。残念ながら安達太良は霧の中ですが・・・。残雪をいただく吾妻連峰の峰々の景観を楽しみました。このまま一切経山へとも思いましたが、今日は「赤湯」へ。

土湯峠へ直接行くバスは吾妻スカイライン経由の観光バスしかなし。路線バスで土湯温泉に行ったらタクシー乗るのも癪。観光バスは高湯から浄土平ー土湯峠を通過して土湯温泉から福島への周遊バスは路線バスとのあいのこで、吾妻山麓を登ってゆくのにしきりと「知恵子抄」の歌を流している。

乗客は約5名。浄土平で約1.5時間探索の時間あり。みんな浄土平で降りる。なんと不思議な観光バス。



浄土平 & 東吾妻山 遠望



吾妻小富士 お釜の縁より 2003.5.25.

浄土平はさすがに車が一杯。 眼前の吾妻連峰 一切経山や大顛への山肌には残雪が一杯。  
 反対側には吾妻小富士がすり鉢状の赤茶けた山肌を見せている。登ればもう少し見えるかも・・・・・・  
 お釜の淵までは階段のジグザグの道を約 15 分 お釜の淵を一周 ゆっくり約 1 時間の walking  
 お釜の淵から見る山肌の縦縞が美しい。また 東吾妻山から一切経山の大パノラマ。眼下には浄土平そして  
 姥が原湿原が広がっている。  
 安達太良山が姥が原野の向こう高山・東吾妻山越しに見えるはずですが、雲と霞の中に消えている。  
 安達太良登れたかも知れん・・・・・・



吾妻連峰 吾妻小富士 お釜の淵で 2003.5.25.

約 1 時間ほどでバスに戻って土湯峠で降りてもらおうことにする。  
 道路には雪がありませんが、浄土平から高山から土湯峠周辺までは山の北側になるため、残雪で一杯。  
 約 20 分程で土湯峠。 雲が流れ やっぱり冷たい。土湯峠には人影なし。  
 南の安達太良・磐梯側は雲と霞で景色は見えないが、反対側には今越えてきた吾妻連峰の山が谷筋に大きな  
 裾野を曳いき、この谷を経立ててこちら側は安達太良連峰。  
 丁度土湯峠はこの谷を詰めた上にあり、両連峰に挟まれた長い谷筋が深い原生林を形成して、土湯温泉・福  
 島市へと北に伸びている。山の南面になるので残雪は消えている。  
 国道はこの峠の下をトンネルで安達太良連峰を潜り抜けていますが、吾妻・裏磐梯スカイラインのゲートが  
 この土湯峠にあり、ここで、土湯温泉から安達太良山の山裾を谷筋に沿って登ってきた旧国道とこの峠で合  
 流し、峠を越えて裏磐梯・米沢へと道が延びている。



土湯峠と峠道脇に植えられた水芭蕉 安達太良山方面はやっぱり雲の中 2003.5.25.

土湯峠の展望所から土湯温泉への道路を下りだすとすぐに道脇に水芭蕉が数株花を咲かせている。  
 浄土平の案内所の人が言っていた水芭蕉はこれか・・・・もう 葉が随分大きく花が葉に隠れている。  
 「もう 遅い・・・・」案内所の人言葉が不安になる。

でも「山溪」には一番春の遅い土  
 湯峠湿原 5 月末まで水芭蕉の群  
 落が見られると・・・・  
 国道を山肌に沿って 500m 程降っ  
 たところから砂利道の幕川温泉へ  
 の道を 50m 程歩くと谷へ降りてゆ  
 く細い山道 土湯湿原への標識が  
 見える。いよいよ原生林の谷筋へ  
 下ってゆく。



土湯峠下 土湯峠湿原への入り口 2003.5.25

## 6.2. 土湯湿原の水芭蕉と赤湯温泉

akayu02.htm



土湯峠湿原 水芭蕉 2003.5.25.

土湯峠 赤湯温泉 好山荘

土湯峠のすぐ下のところから 吾妻連峰と安達太良連峰の間の原生林に覆われた谷筋へ降りてゆく。よく整備された登山道が林の中につけられ、ドライブウェイの喧騒から離れ、芽吹きした木々の柔らかい緑が美しい。10分ほど降ったところから林の中に狭い湿地が点在し、水芭蕉が白い花をつけている。

もう 時期的には少し遅く、葉っぱの方が花より大きくなっている。

人っ子一人いない林の中の湿原に咲く水芭蕉 それはそれで goo なのですが、尾瀬の雄大な燧ヶ岳をバックに広々とした湿原に咲く水芭蕉には負け。水芭蕉はやっぱり尾瀬 狭い林の中よりも雄大な自然の中が一番。でも 湿地の端に座り込み、水芭蕉を見ながら 若葉に眼をやりながら 鳥のさえずりや風の音に耳を澄ますことが出来るのも もう一つの楽しみ 尾瀬の喧騒の中では味わえぬ。 空気がうまい。

また、山はツツジの季節 若葉を通してくる陽射しに映えてツツジの赤が美しい。

### 土湯峠湿原と水芭蕉





幾つか林の中の湿地を抜けると赤湯温泉と野地温泉への別れの標識。そこから約 10 分ほど林の中を赤湯温泉へ向けて歩くと吾妻連峰を背に林の中に赤い屋根の一軒屋が見えてくる。森の中の秘湯「赤湯」温泉である。赤湯温泉への道の途中にも幾つかの湿地があり、水芭蕉が見える。また 湿地や山肌から湧きだす泉の周辺はまっ茶色 鉄分が混じっている。この地の山肌に鉄分が含まれている証である。赤湯も 同じ土地を通して湧き出ているのであろう。



林の中の「赤湯温泉」と その周辺の赤く濁った土

林の中から不意に赤湯温泉 好山荘の正面の広場に出る。

この赤湯温泉には国道が通る安達太良の山裾新野地温泉から車の通れる道がついているが、そこに飛び出した。山の位置からして 安達太良側の山腹にこの赤湯温泉が建ち、安達太良連峰は山肌と林に隠れて 遠望できないが、林の向こうに堂々とした大きな山塊を見せる吾妻連峰が遠望出来る。

12 時少し前 赤湯温泉 好山荘到着。山の湯治場の雰囲気そのまの玄関を入り、この内風呂の赤湯への入湯をお願いする。



赤湯温泉 好山荘



好山荘 55 の含鉄泉 赤



「日本秘湯を守る会」の提灯のかざった玄関を狭い廊下を通過して進むといかにも古ぼけた湯治場の風呂の呈。狭い脱衣場で脱ぎ、風呂に入る。山の中の昼間 誰も客はおらず、狭い風呂であるが、一人占め。丸い湯船に不透明の赤い湯が満たされている。湯船に祭られた湯の神さんからコンコンと湯が注ぎ込まれている。55 の含鉄泉である。お世辞にも綺麗な湯とはいいいないが、これが値打ち。湯船の枠が赤ビカリしている。

有馬温泉の含鉄炭酸泉「金泉」では お湯につけた手ぬぐいが空気にさらすと見てる間に赤く染まるが、それほどにはならない。

お湯の効能もさることながら、木造の湯屋の大きな窓からは明るい外の青葉が窓一杯に見え、自然の中にいるのが実感できる。



赤湯温泉 窓から見える原生林 2003.5.25



赤湯の温泉と窓からの若葉と林の中を吹き渡る風と鳥の声 いつの時代に開かれた湯治場かは知らないが、土湯峠越の街道筋にあって、多くの人を癒してきた温泉に違いない。

赤湯温泉 と 鬼面山・鉄山・くろがね小屋と並ぶ安達太良の峰々。

安達太良・吾妻連峰の山懐に抱かれ、東北道の本道から西へ北会津・出羽への峠道  
その位置に「和鉄の道」のにおいをかぐ。

追伸 柏に帰って地図を調べると吾妻子富士の下から東へ流れ下る川にも「鍛冶屋川」の名前があるのを見つけました。

### 6.3. 鬼面山に沿って 赤湯温泉から土湯温泉へ akayu03.htm



「赤湯」を楽しんで玄関にでてくる。

昼間全く人影がないが、秘湯「赤湯」で週末は予約で一杯という。安達太良連峰・吾妻連峰の登山基地としても good な位置。新野地温泉からのバスを聞くと次は午後4時半までないという。

野地温泉から鬼面山に登って安達太良山を縦走してゆくには時間が遅い。

「鬼面山まで登ってきては・・・」と赤湯温泉の主人はいうが、温泉に入ってゆったりした身にはもう登る戦意なし。

「ツツジは綺麗だし、旧道行けば結構楽しし、山へ登る足持ってれば、2,3 時間下れば土湯温泉。すぐだよ」と主人におだてられ、野地温泉へ出てドライブウェイの旧道を土湯温泉まで約20km ぶらぶらと山を見ながら walk することにした。



林の中の道をドライブウェイに向かって歩き出すと、すぐに丸いドーム状の頂とそれに連なるなだらかな稜線を持つ安達太良連峰の北の端 鬼面山の特異な姿が見えてくる。

ドライブウェイに出たところが 新野地温泉で温泉の建物のすぐ横から鬼面山から安達太良本峰への縦走路が伸びている。林の中の登山道を鬼面山の尾根に登ったところが旧土湯峠  
また、ドライブウェイはこの鬼面山の山裾に沿って土湯温泉へ下ってゆく。



鬼面山を見上げるとドライブウェイ側が切り立った崖になり垂直にける落ち、尾根筋はなだらかな傾斜の続く先に急峻な登りの鬼面山本峰がそびえている。

ふっと 大江山山麓の「酒天童子」の像が頭に浮かぶ。 左を向いて天空をかける鬼 そんな感じをうけました。



大江山 酒天童子の像



安達太良連峰 鬼面山 新野地温泉より

小さな山ですが、ドライブウェイからみあげると風格のある「鬼面山」。この山の向こうに箕輪山・鉄山そして安達太良本峰が連なっている。

「鉄の山」をイメージする安達太良山 その山を他国に越えてゆく街道にあって、その道を見下ろす鬼面山そして 行く人を癒す「赤湯」。

たたら遺跡との関連は見つけれないが、福島・奥羽山脈の山懐 きっと 「和鉄」の人達・旅人の痕跡がここにも印されていたに違いない。

安達太良の山裾にへばり付いて下ってゆくドライブウェイを1時間ちょっと下ると土湯トンネルの入り口付近に至る。

この付近からは 残雪を抱いた箕輪山・鬼面山の安達太良連峰が堂々とした姿をみせ、鉄山も左の端にちょっとかおお出している。広い谷間をはさんで反対側には吾妻連峰がまた、堂々とした姿で対峙している。

その上部 この二つの連峰の鞍部 土湯峠周辺からは行く筋かの皮が東へ流れ下る。そのひとつ 吾妻小富士のすぐ下から流れ出た川に鍛冶屋川の名がつけられている。

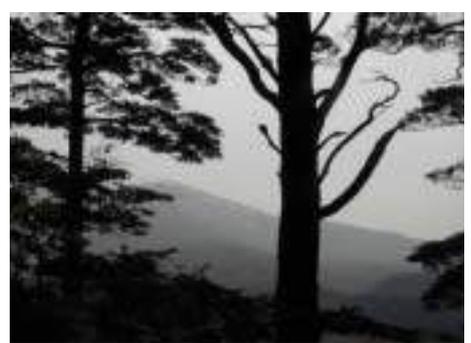
壁としてそびえるこれらの連峰を越えてゆく街道が土湯峠へ向って伸び、国を越えてゆく。 緑の中の雄大な景色にみとれる。



安達太良連峰 箕輪山

国道より 吾妻連峰

土湯トンネル出口近傍から 安達太良連峰と吾妻連峰



交通量の多い国道を行かず また 旧道を歩く。道は良いのに通る車はポツポツ。

ぽかぽか陽気の中 若葉に包まれた林の中を抜けてゆく街道筋の道端にはツツジほか初夏の草花が咲き、天然記念物 アズマシャクナゲ? も一株 山肌にさいているのを見た。

道端では 山へ入って採った山菜のせいりをしている人がいる。

林の中に立ち止まると木漏れ日の中 綿胞子が空を舞い、小鳥がさえずり、風の音が心地よく響く。

本当にゆったりとした気分での walking となった。まさに 行く手定めぬ風来坊である。

## 土湯温泉への街道筋で見た初夏の草花



ぼちぼち 歩くのがいやになりかけた所で土湯温泉が見えてきた。  
道端で声を掛けてくれた車が 「もうちょっとだ」と声をかけて追い越してゆく

今日の私のコース 吾妻スカイラインー浄土平ー吾妻小富士ー土湯峠ー野地温泉ー土湯温泉のスカイライン周遊 70km のスーパーマラソンをやっていた人達がいたが、みんな走ったり、歩いたり この70kmを楽しんでいる。

「マラソンなんて しかも 70km 僕にはとても」と思うのですが、シャカリキに記録目指すマラソンからは程遠いのかな光景。一緒に平行して歩いた人もいて 旧道 一人歩きとは言いながら 楽しいwalkingでした。



安達太良山に「鉄」にゆかりのある鉄山・くろがね小屋の名を見出し、さらにその先に鬼面山そして「赤湯」温泉があることを知って、土湯峠周辺を walking

「たたら」の痕跡を知ることは出来ませんでした。どこまでも続く 原生林の中 赤湯の温泉 そして鬼面山の姿に天空を指す「鬼」の姿を見て、そこを福島から出羽・北会津に続く一本の街道 この道はやっぱり多くの人達の交流路 ぼくの妄想でしょうが、古くは和鉄の道だったに違いないと思えました。

初夏の陽射しをあびて 山裾をゆっくり歩くのも goo

知恵子抄の安達太良にはっきりと鉄の顔を見て満足の日でした。

帰りの新幹線の中 スカイラインを走るバスがかけていた知恵子抄の歌が耳について それを口ずさみながら 夕日の安達太良・吾妻連峰をながめていました。

関西へ帰ると東北がとおくなるなあ・・・

2003.5.25. 夕 東北新幹線 車窓から  
吾妻連峰・安達太良連峰を眺めながら by Mutsu Nakanishi

### 福島県 土湯峠湿原 「赤湯」温泉 を訪ねて

安達太良連峰「鬼面山・鉄山・くろがね小屋」そして山麓から湧きだす「赤湯」の温泉

そこは「たたら・和鉄」と深い関係のある場所に違いない

【完】

特別展「西アフリカ おはなし村」 open

7.

バオバブの木の下で 2003.7.24. - 11.25.

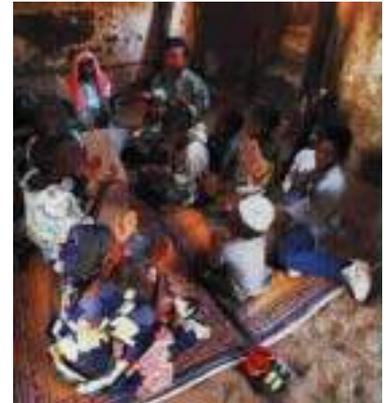
〔西アフリカ おはなし村 ガイド〕 2003. 8. 20.



7月24日オープンした国立民族学博物館「西アフリカ おはなし村」と  
会場中心にそびえ立つ「バオバブの木」モニュメント

「西アフリカ おはなし村」というのは カメルーンほかの西アフリカの  
草原に暮らすフルベ族 文字を持たないこのフルベの村を国立民族学博物  
館の特別展示館に再現。

生活の一部として語り継いできた「むかしばなし = 語り」や音楽を通し  
て、この西アフリカの自由な昔話の世界を「語り合い、伝え合い 触れ合  
い」大人も子供もみんないっしょになってこの村の暮らしを楽しめる体験  
型の素晴らしい空間となっています。



「西アフリカ おはなし村」のモデル 西アフリカ カメルーン フルベ族の村

1. 国立民族学博物館特別展「西アフリカ おはなし村」ガイド  
〔「おはなし村」で聞いた西アフリカの昔ばなしも少し収録〕
2. 西アフリカ マリ国立舞踏団の音楽と踊り

## 7.1. 国立民族学博物館特別展「西アフリカ おはなし村」ガイド

「バオバブの木」って 知っていますか・・



ものすごく ユーモラスな大きな木で西アフリカの村の象徴。西アフリカの人達にとっては 親しい それでいて 神聖な木。不思議な木です。

この大木を会場の中央に設え、この木の周りに、屋敷や大日よけと呼ぶ「おはなし」や「ジャンベ太鼓」を一緒に楽しむ場などを設けています。

西アフリカからやってきた語りべのウンマハーニばあさんは「おはなし村」を「西アフリカの自分たちの村にいるような気分だ」とすっかり気に入っています。

入り口で、西アフリカの帽子と貫頭衣をつけて みんな村民になって、村に入場。

語りべを取り囲んで周るく車座に座って、身振り・手振り・表情をまじえての「独り芝居」に近い楽しい昔ばなしを聞いて.....

気軽にジャンベ太鼓をみんなで気軽に合奏すれば、もう みんな 陽気な西アフリカ おはなし村の仲間。西アフリカのことば「フルフルデ」を教えてもらって 村の中を廻って 声掛けて 楽しく挨拶.....

村を出るときには みんな陽気な西アフリカ通





この「西アフリカ おはなし村」 村]

村長の江口一久さんは民族博物館のユニークな言語学者。

30 数年 カメルーンに研究室を持ち、文字を持たないフルベ族の「むかしばなし」を集め、学問的に体系化すると共に 絵本や日本各地でのおはなし会などで広くこのフルベ族の「むかしばなし」を紹介。その集大成として 大人も子供も楽しめるこの「西アフリカ おはなし村」を企画。

神戸で親しくしている中年仲間のひとりで 江口さんのお話会などがおもしろくて 時折 参加。 そんな関係で「西アフリカ おはなし村」にも参加することになった次第。



「西アフリカ おはなし村」村長 江口さん

民博 特別展「西アフリカ おはなし村」 開館までは 展示設営と会場でのイベント等の連携でもう「てんてこ舞い」。

若いスタッフが走り回り、声を挙げて言い争っていたり、かつての見本市や welding show ・エレクトロニクスショウの当時を思い出しながら、僕にはこれといった役ないのですが、仲間たちの活気の中にいる自分に喜んでいました。

オープンにあわせて パリからやってきた夫妻の案内やアフリカから「おはなし村」のスタッフとしてやってきた「村民」の人達の手続やら・・・結構大変でしたが、7月24日から オープンして、やっと落ち着きました。

## 「西アフリカのおはなし」

日本の昔ばなしに良く似た話もあるので・・・

次から次へと語られる西アフリカの楽しい「おはなし」

これらの「おはなし」には 文字を持たないフルベの人たちが、時代を越えて 楽しさと共に子供達に伝えてきた生活の知恵が一杯。

たくさんの語りべ ボランティアさんが約1.5年かけて練習・準備したと聞きました



ハイエナが色々失敗する話 や 妖怪の話 王様 や 金持ちのピラーリさんの話などなど

王さまや村の娘やシラミやいろんな動物が次から次に登場してくりひろげる楽しいお話

また、日本の昔話に似たお話もあります。「うさぎとかめ」や「はなさかじいさん」が「ママこの娘」の話で登場。でも 日本の話とちょっと違う展開・・・「道端のシャレコウベ」がぶつぶつ話しかける話も

## みんなで合奏 ジャンベの太鼓

### その迫力とリズム 西アフリカを体一杯に感じる瞬間です

全くの素人から約15分で おとなも子供もみんなの前でアフリカの人たちと一緒に合奏。

合奏にあわせてバオバブの木の前で踊りだすひともいて・・・・・・・・。

アフリカのリズムと熱気をみんなで体験出来るとは本当に感激です。



## 2F 展示場に展示された「西アフリカの染めと織り」

村の周りの展示場には 西アフリカの生活を現すさまざまな収蔵品や西アフリカの鮮やかな色・紋様の布や服が展示。



日本の着物と同じく その紋様や色・染め・織りに歴史があり、意味が村の人達によって代々受け継がれて、今見てもその斬新さに目を奪われます。



2F 展示場に展示された西アフリカの染めと織

## 西アフリカ おはなし村の街角で みんなで踊って



2003.8.3. 「マリ国立舞踊団のおどりと音楽」のあとバオバブの木のまわりでみんなでおどりました  
もう みんな 盆踊りののりで・・・・・・・・

「展覧会」というと堅い展示と思いがちですが、ちょっと 手前味噌ですが、村の中に入って、その雰囲気の中で色々な人に出会い、体験して帰る気楽なパフォーマンス型の場のように感じています。



## 西アフリカ フルベのおはな



し

### 【ウサギ と かめ】

おはなし おはなし

うさぎとかめはなかのよいお友達でした。

うさぎは「きみは のろいなあ もっとはやくできないのか・・・」といて、かめをからかいます。かめはこれがしやくでたまりません。

きょうもからかわれたかめは「うさぎくん そんなにいうなら、あした日が上がるのをあいづに、ぼくとむこうの木のところまで、きょうそうしよう。 ぼくが勝ったら ぼくを「おにいさん」とよんでくれるかい・・・」

「ああ いいとも ぼくがのろまなきみにまけるわけがないじゃないか」

村にかえったかめは村のみんなに明日うさぎときょうそうすることを話しました。

「そんなの 勝てっこないよ」とみんなはくちぐちにいます。

「ぼくに いい考えがある 勝つために みんなきょうりよくしてよ。 みんな帰ってぼくと同じくらいのおおきさの友達をあつめてきてよ 絶対にかつから・・・みんなのめいよもかかっているのだから・・・」

そのばん かめくんの家には沢山の友達があつまりました。

「みんな たのむよ 今からぼくの話すとおりにしてよね。 みんなで絶対かとうね」

「いいかい きみはあの岩のかげに隠れていて うさぎ君がうしろを振り向いたら飛び出してはしるのだよ」「きみはあの丘から やっぱり うさぎ君が見え、うさぎ君が後ろをふりかえったら とびだすのだ。」「きみは あそこから」

「まみはあの岩のところから」「最後のきみは あの木の横にかくれて、うさぎ君が振り返ったら飛び出して テープをきるのだ。 みんな たのむよ みんなでうさぎ君に勝とうよ」

つぎの朝がきました。「おはよう かめ君 やめた方がいいよ ぼくが勝つと決まっているのだから」

お日さんがのぼりはじめました。「ヨーイドン」ときょうそうが始まりました。

うさぎはびよんびよんとかめ君の前を走り抜けていきます。

振り返りながら「かめ君はくちさきばかりで・・・もう みえないじゃないか」と前をみるとかめ君が前の丘を「おいっちに おいっちに」と走っているではありませんか

「いつの間に・・・」ともうスピードでうさぎ君は走ってゆきます。

「もう 大丈夫」と丘をかけぬげ、ふりかえって 前をみると また かめ君がまえにいるではありませんか・・・・・・

もう うさぎ君もひっしで走っています。 でも かどをまがって、まえを見ると やっぱりかめ君がいるではありませんか・・・「もう すぐゴール」だ。うさぎ君もひっしです。

とつぜん 目の前がまっくらになり うさぎ君はぶったおれてしまいました。

かめ君はみんなのおかげで 一番でテープをきりました。

これで このおはなしはおしまい。

## 【ハイエナの夢】

おはなし おはなし

ハイエナは肉を食べている夢をみました。肉はよくこえていました。ハイエナが目をさますと肉がありませんでした。

ハイエナは先生のところにいって たずねました。

「夢でみたことが、どうしてそのとおりにならないのですか」

先生はいいました。

「ハイエナよ あしたからおまえさんの見る夢は、本当になる」

ハイエナは横になって、ねむりました。またしても、ハイエナは夢をみました。夢のなかで、ハイエナはおいかげられ、つかまり、縄でしばられ、殺されかけます。

目をさますと、ハイエナはしばられていませんでした。

さて ハイエナは先生のところにいき、

「わたしがみた夢がほんとうになるといわれましたが、ほんとうにならなくていいです」といいましたとき。

お話は おしまい

2003. 8月 おはなし村 「おはなし = 語り」より採取



### 西アフリカ フルベのおはなし



8.

## 研究公演「マリ国立民族舞踊団による音楽とおどり」公演と交流会

バオバブの木の下で みんなで踊って 2003. 8. 3.



8月3日午後1時30分から3時まで 450席びっしり満員の国立民族博物館ホールで開催。

タムタム(太鼓)とバラフォン(木琴)に合わせたリズムと踊りを通して、マリ共和国各地に伝わる伝統音楽と舞踊に酔いしれました。

その踊りの はげしさや躍動感には、豊穡の喜びを表現する祭り、民族の歴史、仮面をつけ神や魔物と交流する儀礼などがこめられ、リズムやステップのひとつひとつに喜びや苦を表現しているといわれています。圧倒的な太鼓と木琴の音とリズムにあわせ、躍動する踊りに、手拍子で答える参加者。舞台と客席とが一体となってアフリカを体験した焼く1時間のすばらしいステージでした。

公演の後、3時30分より「西アフリカ おはなし村」でバオバブの木を囲んで再度 マリ国立民族舞踊団の音楽とおどりが演じられ、みんな手拍子で答え、江口村長はじめ、次から次へと踊りの輪に飛び込み、最後にはみんなでバウバブの木を囲んで踊る盛り上がり。

踊りながら「おはなし村」を出て 民博の正面広場で総踊り。

公演同様にアフリカのリズムと音楽を体験。公演を見れなかった人たちも 公演でパフォーマンスしたくて体がムズムズしていた人達もみんな満足。

「西アフリカ おはなし村」の目指す「西アフリカ」体験のまたとない体験パフォーマンスとなりました。

### 研究公演「マリ 国立民族舞踊団による音楽とおどり」



#### マリ国立民族舞踊団

1960年、マリ共和国独立前日に結成。

マリ各地に伝わる伝統音楽と舞踊を専門とする芸術団体。

「ダンスという分野の中でマリの超自然的な遺産を探求し、創造し、価値をもたせる」ことを目的とし、歴史と伝統を継承する作品だけではなく、現代社会の実状を反映したものにも取り組んでいます。バラエティ豊かなレパートリーで数々の海外公演をおこない、内外から高く評価されています。

バオバブの木の下で みんなで踊って



9.

鉄のモニュメント 万博お祭り広場 大屋根 - 万博記念公園点描 -  
 大阪万国博覧会 お祭り広場を支えた大屋根 覚えていますか  
 by M. Nakanishi 2003.8.20.



吹田 万博公園にある民族学博物館へ行く道はかつての大阪万国博覧会が開かれた心臓部 太陽の塔が立つ「お祭り広場」があるのですが、覚えていますか・・・そのお祭り広場の大屋根を支えたパイプ構造の一部が今も健在で、保存されているのをつい最近みつけました。

僕にとっては「鉄鋼材料・溶接技術」の道に入る第一歩。日本がそして鉄鋼業が高度成長の大発展を遂げるスタートでもありました。

そういう意味では この大阪万博公園特にお祭り広場は日本鉄鋼業発展のモニュメント・鉄の故郷でもある。

大阪万博のメイン会場 今は静かな自然公園になっていて、その中心にシンボル「太陽の塔」が緑の丘の上に今も建ち、その後ろに大きな広場がある。かつてのお祭り広場があった一帯で、ここには全体を覆う大きな大屋根が掛けられ、その大屋根の中心部を貫いて太陽の塔が立っていた。



今はもう大屋根が取り壊され想像だに出来ない。

今は太陽の塔の後ろ側が屋根のない広いイベント広場になっている。その一番北西の隅にかつてお祭広場の一角に大屋根を支えたパイプ構造の一部がモニュメントとして保存されているのをつい最近 民博への道すがら知りました。

万博の大屋根が一部保存されているなど思いも寄らぬことでした。



万博公園 自然園の中にある「お祭り広場 大屋根のモニュメント」

大阪万博の準備が始まったのは、会社に入って溶接の勉強を始めたすぐの頃で このパイプの現地溶接の follow のため、使い走り何度か通ったなつかしい構造物。

パイプでアングルを組み、ボールジョイントでとめ、これを連続して大屋根を作るユニークな構造で広い広場に極端に柱を少なくした当時では本当に斬新な巨大構造物。

鋼の厚板を管状にしてシーム溶接されたパイプが 1900 本強 ボールジョイントとしてこれらのパイプをとめる鉄球が約 100 個。総重量約 6000 トンの鋼材が使われた。

これらを使って 高さ約 40m の位置に長さ約 290m 幅約 110m 厚さ約 7m の大屋根が架けられ、この大屋根そのものが、日本の成長を示すモニュメントであった。

僕の会社がパイプを製造・現地溶接も一部担当し、当時 その溶接部品質の設計・施工について information 討論が沸騰したことなどをこの大屋根建設当時の喧騒と熱気の時代や仲間と共になつかしく思い出します。

モニュメントになっても やっぱり溶接部分は気になって 手をあてていました。

そうゆう意味で この万博公園のお祭り広場の鉄のモニュメントも僕にとっては鉄の故郷です。日本の近代製鉄発展のモニュメント。現代の和鉄の道として抜きに出来ない場所である。

まもなく 取り壊されると聞きましたが、僕らの年代にとっては 本当に懐かしい万博。

あのパビリオンが並んだ万博会場 今は木々に包まれた万博記念公園として整備され、また、この記念公園の中心を東西にモノレールが貫き、そのセンターに正面ゲイト駅〔万博公園駅〕がある。この駅の北側がかつてのお祭り広場一帯で、森の中に太陽の塔がそびえている。



お祭り広場 大屋根のモニュメント



広告や雑多なビルが排除された静かな自然公園となっている。民族学博物館も児童文学館 民芸館 現代美術館などと共に林の中に点在している。この7・8月には「日本庭園」の蓮池の「蓮」が満開となり、朝早くからカメラ愛好家の格好の場所としてにぎわった。

また駅の南側一帯には遊園地「万博ランド」も健在。今はこの一角に「お化け屋敷」も開設され、子供連や若者でにぎわっている。



： 現在の万博記念公園 2003年 8月 と 日本庭園の蓮

大阪近くにいましたが、民博通いを始めるまで、こんなにゆっくりと散策が楽しめる公園が広がっているなど思いも寄らぬ事でした。先日もさわやかな晴れの日 弁当は持っているし、日中民博の中にいるのはもったいないと日中 日本庭園の丘の上で昼寝。

気持のよい散策 昼寝 そして 民博・民芸館・美術館へも 本当にゆったり一日を楽しめる場所となりました。

難点は近いわりに大阪モノレール・電車・バスと乗り継がねばならず、交通費が高いこと。

## 10.

## 「久しぶりのアメリカで」風来坊 2003.9.7.~9.22.

9月7日から22日まで 2週間あまり家内と二人でアトランタにいる息子を訪ねて アメリカ珍道中。楽しんできました。 息子が言うには「よう こんだけ 勝手な旅行く組んできたな・・・」と。

そういわれても「家内はアメリカ初めて。また 何度も行く機会もないし、できるだけアメリカ見てこよう」と・・・・ 私たちの希望に息子がアレンジ チョイス すべてOkで 両方組み込んだまったく欲張りの風来坊。

息子の住んでいる「アトランタ」そして「トロント」「サンフランシスコ」を勝手気ままな風来坊 walk。アメリカで一度行きたかったブロードウェイのミュージカル・大リーグの野球・ナッシュビルでカントリーのライブ ツア ご機嫌でした。

ナイアガラの滝・グランドキャニオンのトレイルそしてアトランタのストーン マウンティン・ロックシティ・巨大な鍾乳洞マンモス ケープのトレイル。アメリカの大自然の大きさにただ唖然として声なしでした。また、久しぶりにシリコンバレーのインテルも訪ねてきました。

9月11日ニューヨークテロによる破壊の記念日 アメリカの空港には国歌が流れ、いたるところに半旗。胸にはリボン。

空港での厳しすぎるほどの手荷物・身体検査に誰一人文句も言わず行列を作っている姿と重なって 自由な国がひとつにまとまっている強さというか そんな筋の通った姿勢に見入っていました。アメリカの利己的な一面の是非は別にして。



【 「ニューヨーク 国際テロ」が起こった9.11.

この週 アメリカではいたる所で半旗 国歌が流れていました 】

アメリカというと「合理・効率主義で行動力はあるが利己的・即物的な国。伝統のないことが短絡的な行動にでるのではないか・・・」と思ってきましたが、何か考えてきたこととは違った一面を見たような気がしています。

むしろ 日本の方が『「短絡的・形式的で ルール無視」の放任 無責任な社会』にまっしぐらに進んでいるような気がしています。

アメリカの方が

「精神的に豊かなものを追い求め出しているのではないか」

「社会がわかりやすいルールの中にあり、その責任も浸透している」。

まだまだダウントウンではプアーな人達を多く見ましたが、何か日本の冷たい視線とはちがったものを感じました。

日本人がご都合主義で アメリカの物まねしている間にアメリカの方が精神的にも社会全体が強くなっていると感じました。

アメリカの大自然の壮大さに触れるとともに「アメリカの社会が大きく舵を切ったのか・・・」と感じる 2週間のアメリカ旅行でした。

ナンヤカヤ アメリカで見聞きしたこと思い浮かぶまま風来坊的にまとめ、紹介します。

「久しぶりのアメリカ で」風来坊 2003.9.7. ~9.22.

アメリカの大自然の壮大さに触れるとともに 街を歩くと「アメリカの社会が大きく舵を切ったのか・・・」と感じる 2週間のアメリカ旅行でした。

ほんの2週間ばかりですが、日本へ帰ってくるともう浦島太郎 やたらに日本のクレージさが目についています。

「対米追従」「アメリカ的合理主義・効率経営」等と口々に言っている間に国際的には誰からも見放された孤児への道 弱者切捨ての競走社会にまっしぐら。はやく 村社会から脱却して精神的に深い社会への転換を図らないと・・・・・・・・。

「アメリカかぶれ」ではありませんが、「見る」と「聞く」とでは大違い。言葉は分かりませんが、「自分の足で歩くのがイチバンヤ!!」でした。

2003.10.10. 神戸にて

アメリカ旅行の整理の中で

Mutsu Nakanishi

## 10.1. 「久しぶりのアメリカで」風来坊【1】 2003.9.7. ~9.22.

- 1-1 アメリカの大自然 地の果てまで その雄大さに声もです
- 1-2 アメリカのセキュリティ 【1】 空港で
- 1-3 アメリカのファースト フード そして オープンテラス

### 1-1. アメリカの大自然 地の果てまで その雄大さに声もです

やっと実現した勝手気ままな風来坊の旅。「アメリカのでっかい自然を満喫したい」期待にたがわずでした。アメリカ西海岸から東海岸のアトランタまで飛行機で約5時間。またアトランタからシカゴまで南から北へ約2時間。

南北が東西よりはるかに短いのは意外でした。でも本当に広い。西部の地球のしわのような山が続く砂漠地帯・コロラド山脈の大渓谷地帯そして南部から中部へ続くアメリカの大穀倉地帯。

旅行中 ずっと晴天にめぐまれ、飛行機からも実感することが出来ました。

アトランタでは 予想もしなかったドデカイ一枚岩の上で360度の地平線。

また 穀倉地帯をまっすぐ北へ ケンタッキーへのハイウェイを突っ切った先には巨大な鍾乳洞「マンモスケーブ」。私たちはほんの2時間ほどの鍾乳洞ツアーだったが、1日入っただけでも端まで行けない大鍾乳洞。インテルの連中が秋芳洞で自慢していたのがこれか・・・やっぱりすごい。

楽しみだったナイアガラの滝壺への船からの見学 太陽の位置によって表情を変える大渓谷グランドキャニオン。飛行機から見た南中部の穀倉地帯とそこを流れるミシシッピの流れ。写真や映像で知ってはいても 今眼前に広がる光景は期待以上。また おとぎの街のようなナイアガラオンザレークの街ですごした午後アメリカの大都会とは違った素晴らしさ。

人によってそれぞれ違った印象でしょうが、私の感じたアメリカの大自然 ちょっぴりですが、写真で・・・・・・・・。

### 南部から中部へ続くアメリカの大穀倉地帯とそこを流れるミシシッピ河



ミシシッピ河とその周辺の田園地帯





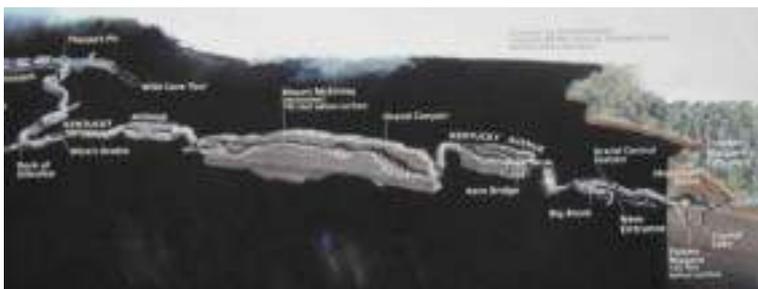
アメリカ南中部の穀倉地帯で アトランタ デンバーの飛行機より  
**360度 ぐるっと地平線 アトランタ郊外の一枚岩の頂上 ストーン マウンティン**



ストーン マウンティンとその頂上からの展望  
**アメリカ人が自慢する大鍾乳洞 マンモスケープ**



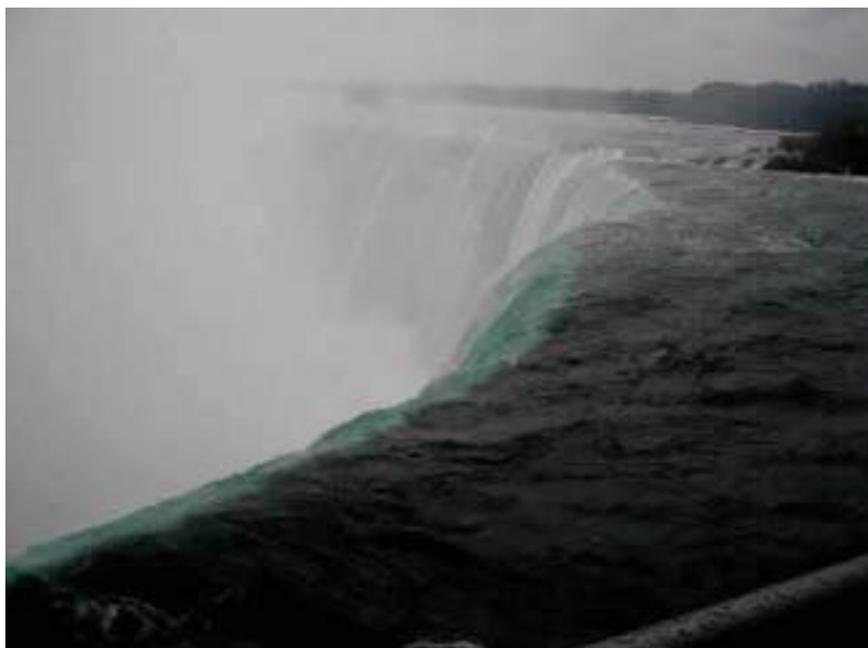
アトランタからナッシュビル ケンタッキーへ向かうハイウェイ



国立公園 マンモス ケープ



ナイアガラの滝と美しいおとぎの街ナイアガラオンザレーク



## 時間によつてその表情を変える大渓谷 グランドキャニオンとコロラド河



まあ やっぱり見ると聞くとは大違い  
「足であるかなあかん」が実感。

でも なんで 日本人ツアーは景色みないで、つくや否や土産屋へ走り、さわりだけ見て一枚写真撮って帰っていくのか・・・本当に不思議なぐらい。もつと ゆったり 見ればよいものを・・・・。 旅行社の企画もほとんどそれ・・・・。

そういういえば、日本国内のバスツアーも温泉とみやげ物屋に一目散。アメリカ人まで知っていてそんなツアー企画が多いようだ。

歩いてみると日本人の異常さが見えてくる。日本人の気質でしょうが、おもしろいですね・・・・。自分もどこかで それやっている。 気をつけねば・・・・と。景色の素晴らしさにひたりながら・・・・。



## 1-2. アメリカのセキュリティ 【1】 空 港 で

空港での手荷物検査厳しいと聞いていましたが、本当に徹底的。靴もバンドもみんなX線かけ



て。ちょっとでも金属探知機がなると個別検査。全身が引っかかるめまで。私は胸のポケットに入っていた1匁角ほどの箔で包まれた錠剤が引っかかり、中々見つからず大変でした。



【 アトランタ 】

でも、アメリカ人は本当に良く我慢していると・・・。  
息子が言うには搭乗ゲートまで行き着くまで2時間前では大変・・・と。  
たかをくくっていましたが、それくらい見ておかないと厳しかったです。

ゲートを先にくぐり、搭乗口に行かねばならず、ゲートを通過して早く搭乗検査を受けないと見通したたずです。これは 国内線でも同じ。したがって、ゆったりと空港内で搭乗間際まで、見送りの人達と会ったり出来なくなりました。

空港が整備され、ビッグになったこともあり、10年ほど前のあの人がごった返して、むんむんしていた空港の中の熱気はまったくなし。

シカゴ・サンフランシスコの空港拍子抜けで、ゲートをくぐって搭乗まで空港内でゆったり。  
アメリカ航空業界の不信の深刻さ 見たように思います。  
また 今は空港が一番安全かもしれません。



【シカゴ】



【サンフランシスコ】

### 1-3. アメリカのファースト フード そしてオープンテラス

「マクドナルド」大きさほか寸分変わらぬのにアメリカの方が高いのはなぜ・・・

3ドルから5ドルもする。日本の59円マックがなつかしい。

メキシカンあり、ホットドッグあり それに ワッフル・サンドウィッチ 数々のサラダ 多種多様。

でも、スナックやサンドイッチなどファーストフードは総じて日本より高いがそのボリュームには驚かされる。

日本人にとっては二人分。

食事と一緒にみんな飲んでるあのコーラの大きさも・・・朝からあの大きさである。

でも「シェアするから二つに」というとスープでもサンドイッチでもサラダでも何でも感じよく 2つに分けてくれる。日本ではちょっとと言えないと思えるレストラン所でも分けられるのは楽である。

食事に行って 残れば、「ドギーバッグ」につめてもらって帰るのもごく普通。

家内は初めびっくりしていたが、二人で行くと楽ですね。



アメリカのサンドイッチ 温めてくれるのですが、パンの外皮だけ。

「中途半端やったら暖めるな」といいたいのですが、これが正統派といわれると・・・イヤになります。

また、何であれだけ外のテラスでランチやティーしたがるのか 全く不思議なほど いたるところにオープンテラスの店がある。

カンカン照りの暑い日差しの中でもオープンテラス 夜も店の中 空いているのにオープンテラスが満員。

街を眺めながら食事するのは私も好きですが、暑い日差しの中や人ごみの通りとなると もう ビックリです。

## 10.2. 「久しぶりのアメリカ で」風来坊【2】 2003.9.7.~9.22.

- 2-1 地下鉄の中で ハンディキャップを守る思いやりと絆
- 2-2 サンフランシスコで「不便を承知で高速道路建設を放棄」したという
- 2-3 アメリカのセキュリティ【2】シリコン バレー インテル博物館で
- 2-4 アメリカで垣間見たインターネット社会  
「久しぶりのアメリカで」

### 2.1. アトランタの地下鉄の中で ハンディキャップを守る思いやりと絆

アトランタは黒人がほぼ半数を占める黒人の多い街。

地下鉄とバスが連動していて バスの駅は地下鉄の駅の中であり、バスに乗り継ぐ時はただである。もっともバスから地下鉄は乗り継げない。

また 駅名がアメリカらしい。





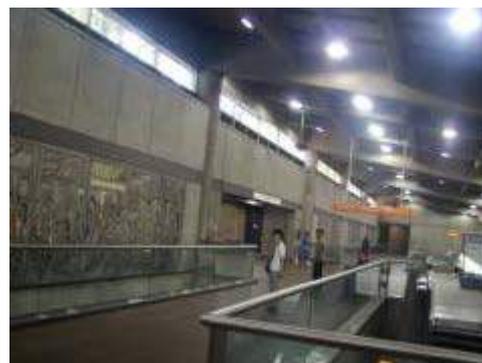
アトランタの街の中心 five point から東西・南北路線が延びているのですが、ここから南へ一つ目の駅は S1 駅(South One) 西へ七つ目の駅は W7 駅(West Seven)  
本当にわかりやすいですね。

アメリカの地下鉄は「汚くて治安が悪い」が代名詞でしたが、アトランタは駅に必ずポリスがいて 車両もきれいで全く不安を感じず、フリーに足として街に行

くのに使いました。オリンピックで大きく変わったのでしょうか、ダウタウンも綺麗ですし、治安もまずまず。

アメリカの好景気の是非は色々あるのですが、やっぱり 長期の好景気がアメリカの街を随分変えたと感じました。

ふりかえてみると アメリカが好景気の熱気で沸いている時にはそんなに感じなかったのですが。。。。



一番感動した出来事がありました。

車椅子で乗り込んでくるハンディキャップの人にも乗客はみんな親切。バス・地下鉄そして街で 自由にでかけるハンディキャップの人達を見かけました。

ダウタウンで片手しか自由が利かない黒人が車椅子を一人で操作して地下鉄に乗り込んできたのですが、乗客の一人がすぐ入り口横に車椅子を固定して横で見守り、降りてゆく人がみんな声掛けて降

りてゆく。本当に自然でビックリ。彼の駅でぎこちなく降りてゆくまでずっとでした。

また、降りるときも ドアが開いて 彼が降りるまで みんな動かず待ってます。

日本ではこんなこと考えられない光景でした。

そういえば、飛行機が駐機場に到着し、ストップするや否や荷物を降ろし、人を掻き分け前へ前へ進んで行くのは 日本人

ほかは みんな 前の人通路に出てくるのを待って 前から順番に。棚の上の荷物を降ろす手助けもあちこちで。。。。



また 別の時に同じような機会にでっこわし、何でもいいから声掛けようと。。。。。「どうも どうも」といったり 「Good Day」といったり。

本当は「ガンバッテ」とでも言えばよかったのか。。。。でも、にこっと笑って返してくれました。

ダウタウンの怖さばかりが頭にあったので、逆に黒人の人たちのやさしさや絆のつよさに本当にビックリしました。

そんな街の中で失敗もやらかしました。

バス停で一番前で家内と並んでいたのですが、バスがきたので乗り込むと運転手から乗り込むのをとめられ、「降りろ」という。

後ろを見ると後ろの方にハンディキャップの人がいる。みんな その人が乗り込むまで待っている。

彼にきずかなかったとはいえ、感心しました。バス停で みんな注意している。これがルールなのですね。

## 2-2. サンフランシスコで

### 「不便を承知で高速道路建設を放棄」したという



サンフランシスコは丘の続く伝統の街並を守るため、街に高速道路が通るのを排除したという。サンフランシスコをひとつの大きな丘とするとこの丘の斜面にビジネス街もダウンタウンもすべてあり、両側が海に突き出た狭い半島の先の狭い丘の群の中輪切りの街路と丘へ登る垂直な街路に古い家並みが立ち並び、70万人が暮らすという。丘の頂点を中心に東西南北にクロスした、ケーブルカーが走り、輪切りの街路を路面電車とトロリーバスが結ぶ。それらの公共交通と車が同じ平面を走る。でも徹底したケーブルカー・路面電車優先 乗降客の歩行優先である。ケーブルはクロスする街路の交差点に止まる。ケーブルが止まるたびに四方の車の流れが止まる。車に乗っている方からすると本当に非効率・スピードも出せないお手上げ状態と思うのですが、サンフランシスコ市民はこの交通システムを選択したという。ビックリです。



外から考えると「効率・効率」のアメリカで、しかも最先端に行く「半導体・情報産業」のひしめくこのサンフランシスコの選択。

ちょっと意外で、何か新しいアメリカの動きに見えました。

まあ スピードが出ていないので大きな事故はないかもしれないが、ビックリするような大きな音をたてながら、消防車がフルスピードで交差点を通過して行く。

事故が起こらないのが不思議であるが、ルールがしっかり守られているからだろう。

ほかの車が消防車のまねしたらそれこそ事故だらけだと思いますが。

ここでも【サンフランシスコ】ルール破りがいない。不思議でもあり、感心もする。



### 2.3. アメリカのセキュリティ【2】 シリコン バレー インテル博物館で

久しぶりにシリコンバレーを訪ねるべく、サンフランシスコ カールトレン駅へ。  
ところが 週末は工事のため運休という。きっちり時刻表が作られ 代替バスがサンフランシスコとサンノゼを走っている。別に何ということなく駅も静かなものである。  
このカールトレンがサンノゼとサンフランシスコを結ぶ通勤電車と聞いていたので拍子抜け。さすが 車社会である。



【カールトレン サンノゼ駅で】

高速道路をバスで約1時間 ハイウェイを走ると赤茶けたシリコンバレーの山並みが見えだすとまもなく青のインテル色した建物が左手にみえてくる。

インテル博物館に入ってゆくとセキュリティがストップをかけ、外へ出るという。

表に確かに「手ぶらで 手荷物はすべて車において来い」との注意書き。

「日本からきたので 手荷物を置かせて 何とかしてくれ」と頼み込みましたが、何が何でも道路の向こう側に荷物ほって来いという。

はっと気付きましたが、爆弾自爆防止の措置。何を言っても駄目。

便法なしとセキュリティが全く取り合ってくれなかったのはさすが世界企業インテル。昔仕事していた頃を思い出しました。

インテルの厳しいセキュリティーもここまで来たか・・・と感心すると共にみんな本当に正面から「テロ」と戦っている事知りました。

感心ばかりしてられないのですが、何とか博物館に行ってきました。どうしたかは秘。

さすが、例外を作らぬインテル 世界企業のセキュリティの厳しさとルールを貫き守る姿勢に昔を思い出しました。

感心ばかりして 家内には怒られましたが・・・



【サンタクララ インテル博物館】

## 2-4. アメリカで垣間見たインターネット社会

大リーグやブロードウェイ ミュージカル・ナッシュビルでのカントリーミュージックの切符-やアトランタのホテルの予約やらすべてインターネットで息子が準備してくれていました。



「インターネットにアクセスして予約。予約結果をプリンターで打ち出してそれを当日持参し、窓口で入場券にひきかえ。席もみんな

決まっている」という。手馴れたものである。代金はクレジットで処理。

予約結果をプリントアウトした紙にはバーコードが付され、それですべて座席まで完了。当日人でごった返す中ほとんど時間もとらず、すぐ入場券に交換。

日本だと何やかや 証明したり、色々・・・だろうに もう 何もなし。ビックリでした。

そういえばクレジットカードはスーパーでも ファーストフードでも街の出店でもごく普通に。

日本でもチケットをインターネットや電話で予約して、ローソンで引き換えすることなど進んでいるのは知っていますが、日常茶飯事的に実にスピーディーに行われているのにはビックリ。また ナッシュビルのカントリーミュージックのコンサート。司会者が繰り返し繰り返し「ダンカン」「ダンカン」と言っている。誰かミュージシャンの名前かと思っていきましたが、何度も聞く中 ふっと気がついて「.com」でした。英語の解らん風来坊 恥ずかしい話です。

そういえば TV もしきりにこの言葉連発しています。

今後は インターネットに携帯電話・クレジットカードが加わって益々便利になる一方 操作できないと全く生活できなくなり、独居老人になること必定。

せつせと 色々チャレンジしていかないと・・・・・・・・・・と感じています。

### 「久しぶりのアメリカ」で

アメリカの大自然の壮大さに触れるとともに 街を歩くと「アメリカの社会が大きく舵を切ったのか・・・」と感じる2週間のアメリカ旅行でした。ほんの2週間ばかりですが、日本へ帰ってくるともう浦島太郎やたらに日本のクレージさが目についています。

「対米追従」「アメリカ的合理主義・効率経営」など口々に言っている間に国際的には誰からも見放された孤児への道 弱者切捨ての競走社会へまっしぐら。

はやく村社会から脱却して精神的に深い社会への転換を図らないと・・・・・・・・・・。

「対米追従」「アメリカ的合理主義・効率経営」などと口々に言っている間に国際的には誰からも見放された孤児への道 弱者切捨ての競走社会へまっしぐら。

はやく 村社会から脱却して精神的に深い社会への転換を図らないと・・・・・・・・・・。

ほんの2週間ばかりですが、日本へ帰ってくるともう浦島太郎 やたらに日本のクレージさが目についています。

「アメリカかぶれ」ではありませんが、「見る」と「聞く」とでは大違い。

言葉は分かりませんが、「自分の足で歩くのがイチバンヤ!!」でした。

神戸にて アメリカ旅行の整理の中で

Mutsu Nakanishi



10月10日、コスモスの咲く道を走り、久しぶりに山口吉敷の陶房葉月・田中先生宅に寄せていただいた。今年も「第50回 日本伝統工芸展」に入選されたことをインターネットで知って、とり急ぎ「おめでとうございます」と申し上げたくて・・・。  
お忙しい日々の中、ご夫妻のいつもと変わらぬ気さくさで、心温まる貴重な時間を割いていただいた嬉しいひと時でした。



玄関先には、さりげなく作品が置かれていましたが、中には展覧会出品作と同様の萩焼きの大皿、大きな花瓶や、その他お抹茶碗などあふれそうに飾られていました。大きな作品はインパクトが強く圧倒されますが、温かみも感じるのは萩焼きの持つ味わいかな。  
神戸の住民としてはつい地震が起きたら落ちて大変・・・と心配してしまう。先生は、謙虚に「これが壊れる時は、もっと立派な陶芸家の作品も壊れる」といとも簡単におっしゃったのだが・・・。

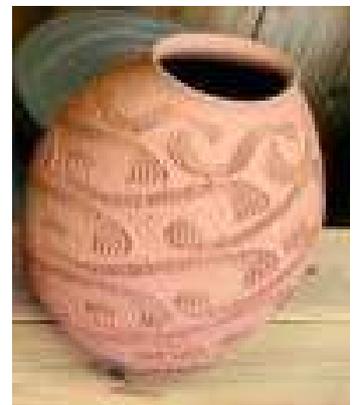


田中講平先生の最近の作品より  
2003.10.10. 陶房葉月にて



### 萩焼の工程

写真の撮り方で少し傾いてみえますが、あしからず。



完成 釉薬 白塗 素焼

陶芸の工程も解りやすく説明していただき、丁度、製作してらした花瓶をサンプルにして、素焼き、白塗り、釉薬 完成品、と並べてくださった。

「もう少し近ければ、作品を作りながらいろんなこと教えていただきたいな」と残念に思った。  
今秋、第50回日本伝統工芸展の関西巡回の折、先生の作品に出会えることを願いつつ帰宅した。

2003.10.13. Kikuko Nakanishi 記

萩焼窯元 陶房葉月

日本工芸会 正会員 田中 講平  
山口市吉敷 1092 Tel: 083-932-8405



山口市街の中心から車で約15分ぐらいのところに  
「陶房葉月」があります。

山口へ行かれたら 一度 是非 お訪ねください



## M. Nakanishi home page 「田中講平先生 掲載 リスト」

- 1998.8. 美祿大理石シンポジウム フィナーレ  
<http://www.asahi-net.or.jp/~ma6k-nkns/sikimine07.htm>  
<http://www.asahi-net.or.jp/~ma6k-nkns/sikimine07.pdf>
- 1999.6. 田中講平先生 第15回 日本陶芸展 入選  
<http://www.asahi-net.or.jp/~ma6k-nkns/sikimine11.htm>  
<http://www.asahi-net.or.jp/~ma6k-nkns/sikimine11.pdf>
- 2002.5. 萩焼窯元 田中講平先生の新しい『陶房葉月』を訪ねて  
<http://www.asahi-net.or.jp/~ma6k-nkns/sikimine14.htm>  
<http://www.asahi-net.or.jp/~ma6k-nkns/sikimine14.pdf>
- 2003.10. 第50回日本伝統工芸展に今年も入選された田中講平先生  
山口市吉敷の「陶房葉月」に寄せていただいて  
<http://www.ne.jp/asahi/kikuko/nakanishi/kheitnka01.htm>



北海道 百年記念塔  
高さ 100メートル

昭和 45 年 9 月完成  
構造 耐候性高張力鋼板による 鉄骨構造  
鋼材使用量 約 1500 トン

札幌の東端 野幌の森 その札幌を見下ろす丘陵地に北海道の大地を従えるかのように森にしっかり根をおろし、その尖塔を大空に突き上げている実に雄大な鉄塔がある。

昭和 43 年が北海道開拓百年に当たるのを記念して昭和 45 年 9 月に完成した塔である。

大阪万博も昭和 45 年。同じ時に当時の最先端鉄鋼材料を使った鉄のモニュメントがあり、激動の日本の高度成長が始まる。

私が鉄鋼会社にかいったのが、昭和 43 年。

一番先に勉強したのが、この塗装を必要としない含銅耐候性鋼板。チャコール色の緻密な膜が鋼材を保護。チャコールの惚れ惚れする綺麗な色だ。

鉄が自分をアピールする自己色・光としては「閃光」そして「くろがね」の「肌光」があげられるが、もう一つあるとすればこの耐候性鋼が放つ「錆」の落ち着いたチャコールと僕は思っている。



街であまり見ないが メンテナンスのしにくい山間部の橋梁などに使われその耐食機能を発揮している。でも この耐候性鋼 サビが付着安定するまでに時間が必要で それまでは サビが流れ出し、まわりを汚すので無塗装での使い道がその後伸びず苦労した材料。



早く肌が、早く安定すれば・・・と良く言っていたのを思い出します。

この開拓記念塔は、しっかりと大地に根をおろし、その尖塔を天空に突き上げ本当に堂々とした晴れの姿。建設後 30 余年を経て、チャコールの肌が安定して素晴らしい姿である。

「なんともいわれん、ええ色なんや、しかも自己修復昨日をもった。。。。」と良く恩師から聞かされた含銅鋼の素晴らしさや当時開発に携わった溶接技術の事など、思い出しながらうれしくなって一時間ほどその周りをウロウロしていました。

今機能性やメンテナンスフリーそして自己修復機能材料がもてはやされているが、その最初の機能性構造用鉄鋼材料である。

## 野幌森林公園 2003.10.29.

### 札幌市街遠望



## 記念塔周辺



## 野幌の森に入って

